

町民参加の町史づくり



竹富町史だより

第58号

2026年4月30日



竹富町教育委員会

沖縄県石垣市美崎町11-1
TEL (0980) 87-6257

目次

〈島々の踊り・狂言 西表・与那国交流会〉…………… (真謝マリナ) …… 1
沖縄県地域史協議会報告…………… (米盛恭子) ……18
環太平洋映画祭
第2回 Cinema at Sea－巡回映画祭 in 竹富町－ …… (米盛恭子) ……35
竹富町における公民館の「足跡」と連携協議会の役割…………… (山城千秋) ……40
首都県における八重山に由来する郷友会各覚書…………… (有田静人) ……41
〈斜里町立知床博物館竹富町資料調査〉
竹富町調査を終えて…………… (勝田一気) ……43
知床博物館竹富町資料調査報告…………… (樋口真人) ……44
2025年度 竹富町史編集業務日誌抄……………45
第50回竹富町史編集委員会議事録……………48
竹富町史編集委員会及び竹富町史編集室・竹富町史編集係の変遷……………52
寄贈図書一覧……………58
購入図書一覧……………64
アウエハントー＝静子 presents 第6弾！
ウリィズンの記憶……………65
編集後記……………67

〈表紙の写真〉

2025年（令和7）10月12日与那国島嶋仲自治公民館を会場に開催された「結い風」民俗芸能・文化交流事業の出演者集合写真。来場者数は出演者も含めると100人を超え、与那国島と西表島の芸能文化を通じた交流会となりました。

写真提供：真謝マリナ

〈島々の踊り・狂言〉

与那国公演「結い風」

～響まし 我島ぬ 芸ぬ数々～ 報告書

民俗芸能・文化交流事業実行委員会 結い燈^{あかり}
眞謝 マリナ

1. はじめに

私は15の春で「島立ち」をして生まれ島である与那国島を離れましたが、島にいた頃には、あまり感じる事ができなかった我島の芸能の豊かさを、離れてみて初めて深く実感することとなりました。その後、縁あって嫁いだ西表島でのさまざまな行事や祭事のなかで、島で大切に受け継がれてきた唄や芸能に触れる機会をたくさんいただきました。そうした日々の中で、「西表の芸能を生り島の与那国の人にも見せたい!」「与那国の芸能を西表の人にも肌で感じてもらいたい!」という強い思いが募り、この度、民俗芸能・文化交流事業実行委員会を立ち上げ、与那国島での芸能公演を企画いたしました。本企画に賛同してくださった実行委員会の西表の皆様、そして温かく受け入れて下さった嶋仲自治公民館と踊り座の皆様、キングイ有志の会の皆様には、心より感謝申し上げます。

今回の公演名の「結い風」には、同じ志を持つ人々の想いを「風」とし、それらを束ねて大きな力に変えていきたいという願いと、この公演を通して、結ばれた輪を広く広げていきたいという想いを込めました。また、実行委員会の名前「結い燈(ゆいあかり)」には、人々の力を結集し、大切に受け継がれてきた八重山の芸能と文化という「燈」を絶やすことなく、未来を明るく照らしていけますようにと願いを込め、本事業を推進してまいりました。

2. 概要

- ・報告書作成日：2025年12月1日
- ・公演名： 結い風(ゆいかじ)
- ・主催： 民俗芸能・文化交流事業実行委員会 結い^{あかり}燈
- ・共催： 嶋仲自治公民館・竹富町教育委員会・与那国町教育委員会・一般社団法人与那国フォーラム
- ・後援： 祖納公民館 千立公民館 西表青年会
- ・公演日時： 2025年10月12日(日) 開場 13:30 開演 14:00
- ・会場名： 嶋仲自治公民館
- ・出演者： [西表] 山下義雄 中坂真吾 那良伊隼人 古見浩之 眞謝祐太郎
池田奈々 山下智美 眞謝マリナ 山下青空 古見光 古見天
[与那国] 砂川オトミ 米澤恒司 与那原マリサ 慶田嵩正弘 村松稔
前外間百合子 富澤由美 稲蔵範子 田島香奈子 益美生子 米浜香織
崎元俊壺 成瀬満紀人

3. 公演実施結果

3.1. 実施内容

今回の公演では、それぞれの演者が互いの演目を鑑賞できるように、第一部を与那国島、第二部を西表島の演目を行う構成としました。当日は、95名(うち男性39名・女性65名)と多くの方が来場され、互いの島の芸能への関心の高さが感じられました。また、若い世代の来場者が多く見られたことも、伝統芸能の継承という観点から、非常に意義深いものとなりました。島々が誇る文化が、時代を超えて次世代へと確実に引き継がれていることを実感させる公演となりました。

3.2. 演目の内容

舞踊で使用する小道具や衣装の彩り、歌の曲調やリズム感などの違いを感じられるような演目を選びました。与那国島から舞踊3点、狂言(キングイ)1点、西表島から舞踊4点、狂言(キョンゲン)1点、独唱1点を披露しました。

演目名	種類	出演者	
天上天拝	狂言(キョンゲン)	山下青空	西表島(千立)
道唄	舞踊	前外間百合子・富澤由美・稲蔵範子	与那国島
ながく節	舞踊	田島香奈子・益美生子・稲蔵範子・米浜香織	与那国島(嶋仲)
ドゥングトゥ	狂言(キングイ)	崎元俊壺・成瀬満紀人	与那国島(東)
変わりゆくなんた浜	舞踊	前外間百合子・富澤由美	与那国島
祖納嶽節	舞踊	古見光・眞謝マリナ	西表島(祖納)
千立口説	舞踊	山下智美・池田奈々	西表島(千立)
高那節	舞踊	古見天	西表島(高那)
デンサー節	独唱	山下義雄	西表島(上原)
下原節	舞踊	眞謝マリナ・古見光	西表島(祖納)

4. アンケート集計結果 ー反省とまとめー

4.1. 来場者アンケート(95人中21人回答)

- ①本日の公演の満足度 …95.2%
- ②今回の公演を友人・知人に勧めたいと思いますか …93.4%
- ③演目は魅力的でしたか …96%
- ④公演のご感想・ご意見をお聞かせ下さい。

〈良かった点〉

- ・素晴らしい西表。与那国島の芸能を堪能できました。今後もお互いの交流ができますようお祈り申し上げます。お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・干立口説がとてもよかったです。楽しかったです。
- ・楽しく見せてもらった。今後も伝統継承に励んで欲しい。とても良かったです。
- ・今後数多くの公演に希望。
- ・お疲れ様でした。西表島からたくさんのエネルギーをもらいました。「島外から島をみつめなおす」大事なことです。ますますの交流を願いたい。
- ・西表島の華やかな衣装や手の細かい踊りの数々に驚きました。デンサー節には、涙が出ました。心にグッとくる歌詞でした。もっと観てみたい、聞いていたいという公演で、観にきてよかったです。島の方の芸能を大切にされている思いを感じました。司会のエピソードを交えての話で、より親近感を持って観ることができました。学生時代に干立集落で1人の古老から、年中行事や民話などを聞いたことがあります。今回の公演で当時の干立の静寂な空気感を思い出しました。遠い島だと思っていましたが、数年ぶりに西表を感じる事ができました。西表島の芸能を観る機会を作ってくださった皆様に感謝します。
- ・1泊2日で与那国を訪問しました。空港の売店でこの公演があることをお伺いし、訪問させて頂きました。帰りの飛行機の関係上、途中で退席させて頂きます。地元の伝統芸能を大切にされていることが、よくわかりました。素晴らしいプログラムですね。ただ、事前の解説がなければ地元言葉はほぼ理解できませんでした(笑)。解説ありがとうございました。
- ・デンサー節とても感動しました。西表の皆さん頑張って下さい。
- ・非常に完成度が高く感動しました。
- ・それぞれのステキな違いをみれて楽しかったです。皆さんとてもかっこよかったです。また見たいとおもいました。
- ・与那国出身の眞謝マリナさんの嫁ぎ先が民俗芸能が盛んだったため、与那国のことも思い出されたと思います。私も中学校卒業以来ほとんど島へ帰ったことがなく懐かしく思い、何よりもデンサー節に心打たれました。ありがとうございました。今後も皆様のご活躍を期待しています。
- ・たいへんよかったです。

〈課題点・改善点〉

- ・狂言のセリフの意味が分からないので、パソコン&プロジェクターなどを使用して標準語の訳文を投影して貰えると嬉しいです。

4.2. 出演者アンケート

① 本公演「結い風」に参加してみてどうでしたか？

- ・楽しく勉強、交流できました。
- ・とても良い経験をさせていただきました。
- ・与那国が楽しかったです。
- ・楽しかった、勉強になった。
- ・とても素敵な公演でした！次は与那国から西表に行きたいです。
- ・とても良い取り組みだと思いました。
- ・とても楽しかったです～参加できたことに感謝しております。
- ・「よその芸能や文化に触れると、自分たちの文化芸能が大切に思えるようになる」と言われますが、やはり外に出て見聞を広めることは大切ですね。
- ・ありがとうございました、与那国。

② 与那国島の演目を見て、感じたことや聞きたいことはありますか。

- ・同じ起源を持つ曲の違いが面白い。
- ・「〇〇座」という仕組みや師匠(指導者)の役割が機能していて、羨ましいと思いました。(互いに善し悪しはあると思いますけど)
- ・衣装や小道具、祭事の道具などもそばで間近に見ることができてとてもよい体験でした。
- ・聞き馴染みのある曲があったことに驚きました！
- ・舞台背景を聞きたい。

③ 西表島の演目を見て、感じたことや聞きたいことはありますか？

- ・西表の言葉が全然分からなくて、字幕があればなーと。(狂言の際)
- ・男の方が踊ることに驚きました。着付けの方も男の方がやっていたので、驚きました。

④ 今回の事業の取り組みを終えて、得られた成果や学んだことはありますか？

- ・隣村の曲の良さを発見しました。
- ・自分達の踊りの見直しの機会にもなりましたし、見聞を広げる機会にもなりました。
- ・西表の着物が素敵でした。もっと根掘り葉掘り聞ければよかったです。
- ・髪の毛の結い方。化粧の仕方。

⑤ 今回の事業の取り組みを終えて、課題や改善策がありましたらお答えください。

- ・音響を良くしたいですね。
- ・準備や段取りの分担がもう少しできるとよいと思います。今回は初めてのことなので、段取りに予想が付きませんでした。今回のことを活かして、段取りを表やリストなどに明確化して、できる人に振り分けていくこともしてよいと思います。
- ・今回行った人だけのものにせず、行かなかった人にどう共有していくか…、ですかね(難しいですけど理想を言えば)

5. 公演の振り返りと今後の後進育成に向けた展望

今回の公演を通して、互いの島の芸能の良さや魅力を五感で感じることができました。継承者同士の交流の中で特に印象的だったのは、担い手の多様性です。島の出身者だけでなく、移住された方や島に嫁がれた方、さらには島外・県外の出身者の方々も多く、それぞれが芸能への理解だけでなく、島の文化や価値観などの違いも受け入れながら継承に励んでおられました。その姿から、島を想う心の強さと、芸能・文化が持つ『人と人を結びつける力』を再確認しました。

こうした現状を踏まえ、芸能と文化を次の世代へ繋いでいく者として、責任と役割をしっかりと果たせる「仕組み作り」が必要であると感じました。

今後は、踊りの技術の向上にとどまらず、化粧・髪結い・着付けの習得や若手の地謡の育成を段階的に進めてまいります。その実践の場として、次世代の担い手が主体となる公演を開催するなど、後進育成に特化したプロジェクトを積極的に企画していきたいと考えています。

これからも他島との交流を積極的に継続し、人と人との繋がりが強みとなり支え合っているような関係性を築くことで、島の芸能を次世代へと確実に繋いでいく所存です。



演目の紹介

(1) 天上天拝 (ティンチョウ ティンパイ) 西表島(千立) / 山下青空

節祭の演目は、天上天拝（一番狂言）を皮切りに行われる。
男子が行う。身ぶり手ぶりをいれ威勢よく口上を述べる。



ティンチョーティンパイ ティンチョウティンパイ ワタル ワタンジ カジュール カヂヌハナ/
トウヤ フッチャン ヤマトウ カグシマ ウチナー リューチュー / チジユク ウチヌディ
チジヌ ジュリグアータートウ / ティーサイ アシビシ ワッター ニーセーターガ
ヒャークピンチキン シリチキラッティ / イチクアンユヤ ナナクアンマギシ
ナナクアンユヤ ハチクアンマギシ / ウフアヤジョーミチカラ アダヌパサバヌティ
トウタール カゲ ムサットウ ウチラン / ヤティン サバク ナマカラドゥ ギーヌ
カジカジ ンジャシヤビグトウ / ウチャクヌメェ グユルリットウ ウミカキヤビラーサリ

【訳】

天上天拝、天上天拝、渡る渡し場は、風薫る垣花

唐は福建で、大和の国は鹿児島であり、沖縄は琉球である / 相当に呑んで

辻町の女達と / 手取り足取りして 我等の二才（若者）達は / 安物の白粉や髪のおをぬられ /

一貫だと思ったら七貫だと言われ / 七貫は八貫だと吹かけられ / 首里の大綾門の通りから 阿旦葉の
草履を履いて

通る姿は 全く似合うものではありません / これからはそうではありますが / 芸の数々が出
て来ますので / お客様方々、どうぞごゆるりとお覧ください

※「アダヌパサバヌティ」を「アダヌパサバ ハチ」と伝承している人もある。

(2)道唄(ミティウタ) 与那国島 / 前外間百合子・富澤由美・稲蔵範子

この謡は、新しい年を迎え今年こそ弥勒世を賜るように島の大主に祈願した願いが叶えられて、島の繁栄の一途がたどっていると祈願成就の慶びの歌である。



【歌詞】

- 一. 今年年 始^{くとうちとうちほど}みよ スウーリヌ *1巳^{とうちほど}ん年 始^{くとうちとうちほど}みよ ウネシューラーヨ
- 二. 十日越^{とうかく}しぬ夜^{ゆあみ}雨よ スウーリヌ やばやばと^{たほ}賜^{たほ}らり ウネシューラーヨ
- 三. 迎^{んか}てい来^くる年^{ととし}やよー スウーリヌ 弥^{みるく}勒^く世^ゆば^{たほ}賜^{たほ}らりよ ウネシューラーヨ
- 四. 思^{うむ}た事^{くといかな}叫^こしよ スウーリヌ 願^{にが}いぬ筋^{ちい}ちなしよ ウネーシューラーヨ

*1その年の干支が歌詞となる

【訳】

- 一. 今年の年始め 巳の年始め
- 二. 十日越しの夜雨 やわらかに賜われ
- 三. 迎える年は 弥勒世を賜われ
- 四. 思ったこと叶え 願ったことを果たし



(3)ながく節 与那国島(嶋仲) / 田島香奈子・益美生子・稲蔵範子・米浜香織

この謡は、弥勒世を象徴した謡で、大国から弥勒をお迎えし泰平な御代を賜り、五風十雨に恵まれて五穀豊穡を賜りますようにと祈願の歌である。



【歌詞】

- 一. 大国から福祿寿 与那国に入詣ち 今から世や弥勒 世果報でむぬ
※ミンミンミン チーヤーブ (以下、囃子省略)
- 二. 嶋仲ぬ上に 黄金灯籠下ぎてい うりが明がいに 弥勒近い
- 三. 弥勒加那志入詣ち 遊ばばん遊び 踊らばら踊り 弥勒思ん子
- 四. 御万人ぬ為に 此ぬ島に入詣ち 嬉しや誇らしやや さんさ知らん
- 五. 十日越しぬ夜雨 降り続き給れ 向てい来る年や 世果報でえむぬ
- 六. 昔代ぬ名残り 十日越しぬ夜雨 五穀作物や 満作さびん

【訳】

- 一. 大国から福祿寿 与那国にお出でになり 今からの御世は 弥勒世果報です
- 二. 嶋仲の上に 黄金灯籠下げて その明かりで 弥勒を迎え
- 三. 弥勒加那志お出でになり 遊ぶなら遊べ 踊るなら踊れ 弥勒思子
- 四. 万民のために 此の島にお出でになり 嬉しさ誇らしさは 限りがない
- 五. 十日越しの夜雨 降り続き給われ 向かって来る年は 世果報です
- 六. 昔代の名残り 十日越しの夜雨 五穀作物は 万作です

(4)ドゥングトゥ(狂言)

与那国島(東) / 崎元俊壺・成瀬満紀人

節祭の御馳走をたくさん準備したところ、刺身にする魚がないので、公民館長から魚取りを言いつけられた。若者2人はサンニヌ台の釣り場に行き投げたら大きな魚が掛かった。喜び勇んで大きな魚をたぐり上げる様子をドゥングトゥの拍子にあわせて、ユーモラスに演じている。「磯釣りに惚れると女に惚れるよりも尚ひどい」という諺があるように、魚釣りに夢中になっている様を揶揄している。



①名称 ドゥングトゥ(読み唄)

②人数・装束

人数 2人

装束 2人ともにドゥタティ(軽装)、ミンサ帯、針巻、アンデル、棒、釣針、釣糸、魚の模型

③音楽 狂言出羽・ドゥングトゥ(読み唄)、ミルク唄

④台本

勇一：我ぬど、前黒島ぬ勇一(演者の名)ゆー。

公民館長親んがあ、来んで云わんで行て拌み来りや。節踊きるんで、御馳走や、まーし

でど歩よ、芳秀。

芳秀：おー。何や、兄貴、夜んとん明らぬたきでいわるんすや、兄貴。

勇一：お願いでいどう歩よ、公民館長親んがあ、来んで言でわいび、行て取い来んで言でわいび、いるんがあ、我んがあ一人しや成るんで思にぬりや、お願、今日や、兄貴とう、難儀一とうらしひり、お願。

芳秀：いた。兄貴事どうありや、聞うやしどうききらりる。磯や何処かや。

勇一：サンニダティ。磯や此処。

芳秀：磯や此処一。何や兄貴、此処、黒一ちちてい、目玉返して居るむぬや。

勇一：やあー。高声きんな、此どう魚んで言どう。

芳秀：此一。全部、取うりるかや。

勇一：えい。兄貴んがあ、尻どーんで言たや、縄の尻、さぶらぎりよ。

芳秀：人人間で、言どば、此処さ、くまさ。

勇一：なんぐうるんど、なんぐうるんど、※繰り返し。尻どー。

(ここで芳秀は勇一の尻に手をいれて投げ飛ばす。)

勇一：尻どうんで言たや、縄の尻ど、さぶらぎりんで言たる、我ぬど海き、返し捨てるなこー。

此見にんに、大魚ぬ臭いきるんそ。

芳秀：まーむぬいど。あるばん。

勇一：今や、頭どーんで言たや、鯰んき指たたくみて、頭咬むさぐりよ。

芳秀：人人間んで言どば、此処さ此処さ。

(ここで大きな魚が掛かったので、ドゥングトゥを読みながら魚を引き揚げる。)

勇一：えーい。えーい。大魚。

魚どーんで言たや、魚ぬ頭どう咬いんで言たる、我んがあ頭どう咬なこー。之見んに、大魚どあんそ。

芳秀：でー兄貴此ぬ魚少たてゝ刺身切いて食てどう行らる。

勇一：あー出来ぬん。早く家んき。

芳秀：うんに言でわらぬき、兄貴だあさあどうあるゆんがら、少たてんでや。

勇一：成らぬん、村にや、我達どう待てぶるゆんがら、持行て、全員と一緒ど食りるりや、で一家んき。

ドゥングトゥの文句

アダニバナ ドゥヌマチ クンキャダティ サンニダティ イチクダリ ナナクダリ マーサテニ
ウリテド バチチ トウバ イトゥマギテ タグテドゥバ タニカギティ ウルシュタバ
ウブイユヌ プイサガイ

イタユガヌ サシユガヌ マーウイナギイー ミヤラビヌ フイサグル チチサグル タマナラス
ドゥーキントゥ ミヤラビト デリマチャガンデヤ イルシキニ カンガリバヤ
ミヤラビド バヌマチ

ハイシキニ カンガイ ミリバ ダンデン クンデン ウブイユド バヌマチ ウブイユド

ドゥングトゥの要約

1. アダニ花、ドゥヌマチ、クンキャ田、サンニ台、一下り七下りして岬に下りた。
2. 板床、差し床の真上に美童と遊ぶのとどちらが良いかと言ったら、色事を考えたらやはり美童の方が良い。
3. また、食べるのを考えたら、どうしても、こうしても大きな魚の方が私は良い。

〈ミルク節〉

- 1 思た事叶し 願いぬちでちなし むにに たとうららぬ 今日ぬ嬉にしや

(5) 変わりゆくななた浜 与那国島 / 前外間百合子・富澤由美

この謡は、時代の流れと共に島の自然が開発化され、昔の面影が日一日と変化され、島の名所の波多浜が見る影もなくなる侘しさの謡である。(作詞 宮良保全)



【歌詞】

- 一. ^{うとつ}音に^と響ゆ シタリヌヨーンゾ まりる ハリ ^{ななたはま}波多浜やしが ^{ない}今や^う打てい
^{かば}変いてい ハリ ^{かぎ}影ん^た立たん ハイヤマター (カタカナ表記は囃子詞、以下省略)
- 二. ^{んかちうぶんかち}昔天昔 ^{ななたはま}波多浜入り海 ^{たばるがわす}田原川添いに 帆船や^ち着ちゃん
- 三. ^{いくゆまたいくゆ}幾夜又幾世 ^{みく}廻てい^{うちゆ}来る浮世 ^{ななた}波多入海や ^{みく}廻てい^{かば}変ゆん
- 四. ^{とつてい}時ぬ^う押す^{なみ}波や ^{すぎま}凄し^{なんたう}どあむぬ ^{はし}波多大離り ^{まむ}橋ん^{たば}掛ぎてい
- 五. ^{うらぶうぶだま}宇良部大山や ^{とうむだぎ}共丘ゆ^{しま}連りてい ^{いやすが}島ぬ^{まむ}弥栄い ^{たば}守てい^{たば}給る



(6)祖納嶽節(すないだき) 西表島(祖納) / 眞謝マリナ・古見光

祖納村は西表島で最も古い集落です。1502年、慶来慶田城用諸が西表村番所を現在の祖納公民館に置いて西部地域の親村として政治経済文化の中心的役割を果たしてきた伝統の集落です。生年祝い、敬老会、その他、祝いの座の一番踊りとして座開きに踊られます。



【歌詞】

- 一. 西表ぬ 祖納嶽上なか 上なかよう ※ハイヒ ヨンナ (以下囃子詞省略)
- 二. 五日廻り十日越しぬ世雨ぬ 世雨むよう
- 三. ミリク世ば 世果報世ば 賜らり たぼらりよう
- 四. 昔世ぬ 神ぬ世ぬ 遊びぬ あしびぬよう

【訳】

- 一. 西表の祖納嶽の上に
- 二. 五日ごと十日ごとの恵みの雨が賜われた
- 三. ミリク世果報の豊かな御世が賜わり
- 四. 昔神世の神あそび



(7)干立口説 (ふたてい くとうき) 西表島(干立) / 山下智美・池田奈々

干立村の創建をはじめ、風光明媚な村の名所の数々がうたわれています。踊りは近年本盛秀氏によって振り付けられ、集落を代表する舞踊として多くの祝宴で歌い踊られます。



【歌詞】

- 一. さていむ^{むた}豊かな^{ふしたて}干立^{かなざう}や 金座^{くしあ}大嶽^{まくとう} 腰^{かふ}当^{しま}いてい 誠^{まこと} 豊かな^{かふ}果報^{しま}の島
 - 二. 島^{しま}ぬは^いじみや伊^い美^み底^そ 嶽^{たき}原^{ぼる}真^ん中^{なか}に^み恵^ぐあり 膳^{じん}配^{ばい} 茶^ちネ^ねー 上^うぬ井^か戸^にぬ 神^{かみ}ぬ恵^みみぬ 玉^{たま}ぬ水^み
 - 三. モイ^{なが}ダ^{はま}長^{なが}浜^{はま} な^ながむ^むりば 波^{なみ}に^う浮か^かぶや 夫^み婦^づ石^{いし} 島^{しま}と^とう^と伴^{とも}でい ト^とウ^ウバ^イイ^ラマ^マや
 - 四. 枝^{えだ}持^ぢち美^みら^らさや 五^ご本^{ほん}松^{まつ} 身^み持^ぢち美^みい^いさや 夫^み婦^づ石^{いし} 乙^お女^に美^みら^らさや 我^わ島^{しま}や
 - 五. 沖^{おき}ぬ与^ゆ那^な国^{くに}口^{くち} 眺^{なが}むりば サ^さサ^ラ北^{きた}風^{かぜ} 吹^ふく節^{ふし}や さていむ 美^みら^らさや 波^{なみ}ぬ花^{はな}
 - 六. 昔^{むかし}神^{かみ}代^{しろ}ぬ 御^{おん}話^{なし}や ウ^うー^にフ^フア^ア船^{せん}頭^{とう}や 真^ま帆^ほ上^あぎてい 上^のり下^{くだ}りぬ 八^{はち}反^{たん}帆^ぼ
 - 七. 島^{しま}ぬ島^{しま}々^々見^み渡^{わた}しば 節^{ふし}々^々物^{もの}作^{つく}い^い良^{よく}く^くで^できてい さていむさていさてい 果^か報^{ほう}ぬ島^{しま}
- 〈引き場〉 祖^す納^{ない}干^は立^{たて} 行^いき渡^{わた}る 与^ゆ那^な田^{でん}石^{いし} 架^かき造^{つく}てい 行^いくも帰^{かえ}るもや^やし^しや^やし^しと^とう

【訳】

- 一. さても豊かな干立村は 金座山を腰にして 誠に豊かな果報の村である
 - 二. 村の始まりは伊美底嶽原の中に恵みあり 膳配井戸 茶ねー井戸 上ぬ井戸の 神の恵みの玉の水のおかげです
 - 三. モイダ長浜を眺めれば 波に浮かぶ夫婦石は 村と伴にトゥバイラーマよ
 - 四. 枝持ちの美しいのは五本松 身持ちが美しいのは夫婦石 乙女の美しいのは干立乙女である
 - 五. 沖の与那国口を眺めれば 北風の吹く季節は さても美しい波の花である
 - 六. 昔神代の伝説に ウーニファ船頭は 八反帆の舟に乗り首里と行き来した
 - 七. 村を見渡せば 季節ごとの物作りは良くできて さても果報な村である
- 〈引き場〉 祖納干立を行き来する与那田石橋をかけたおかげで 往来は安心して通うことができる

(8)高那節 (たかなぶし) 西表島(高那) / 古見天

高那村は西表島北東部に位置する村の名で、1909年に廃村となりました。歌詞の意味は不明とされていますが、弾むような旋律とともに祝意に満ちた歌で、祝宴では好んで歌い踊られます。



【歌詞】

- 一. 雨が降るとうしやーはんねさ北から曇やいすり ゆみばするとうし あかめくんがやり
うかしたえ きじんきざきざざんざぶるに うざざ ざんざぶるに むじゆるかじゆる
じんじんどー さんさむじゆるかーじゆる じんじんどー 今日ぬ誇らしやー ハリヤーリヤー
- 二. それもさんやぬ いたりたりまーはり にわどうり水ます じゅうじゅうくー さーうすぬ かーすぬ
あまむす それみどうな さーあますすな さーあますすな さーにわみてい にわみてい
よーてよーて 今日ぬ誇らしや はりヤーリヤー
- 三. ずるぬざーりぬやーはんね さー北ぬびーぬ なま蛸やいすり けらもきざんで はいるいもゆん
かきていやりうかしたえ きじんきざきざざんざぶるに うざざ ざんざぶるに むじゆるかじゆる
じんじんどー さんさむじゆるかーじゆる じんじんどー 今日ぬ誇らしやー ハリヤーリヤー
- 五. よたれもよたれも しゅすなむぬなりなりなはり にわどうり水ます じゅうじゅうくー
さーうすぬ かーすぬ あまむす それみどうな さーあますすな さーあますすな
さーにわみてい にわみてい よーてよーて 今日ぬ誇らしや はりヤーリヤー

歌詞の意味は不明とされていますが、當山善堂氏は歌の由来として、次のような伝承があると述べています。三月三日の桃の節句に潮干狩りに出かけた青年男女が天候の急変による激しい風雨に遭い、村中が救助方法を講じているさ中、天候は回復し全員無事に戻ってきた。その折り、中国から日本への帰途台風に遭ってこの村に漂着し住み着いた大和びとのザンザブローなる人物が、嬉しさのあまり即興的に詠んだものだといわれ、《ザンザブロー節》とも呼ばれている。

(9)デンサ節 西表島(上原) / 山下義雄

上原村の役人宮良里賢によって作られた歌で、八重山を代表する教訓歌として広く知られています。デンサとは「～であるそうだ」と訳されています。歌う人の思いをのせてうたわれ、多くの歌詞が作られている点もデンサ節の魅力のひとつといえます。



【歌詞】

- 一. ^{ういぼる}上原ぬデンサ ^{むかし}昔からぬデンサ ^{ぼんくろい}我ん心言ざば ^{聞きゆたぼり}聞きゆたぼり ^{デンサ}デンサ
- 二. ^{しまむ}島持ついどう家持つい ^{ふにぬ}舟乗るいどうゆぬむぬでん ^{しどうふなぐ}舟頭舟子 ^{うやふあす}親子揃らにばならぬ ^{デンサ}デンサ
- 三. ^{うやふあかい}親子美しや ^{ふみ}子から兄弟美しや ^{うとどう}弟から ^{きないむ}家内持つ美しや ^{ゆみ}嫁ぬふあから ^{デンサ}デンサ
- 四. ^{ぶしちく}デンサ節作り ^{わらびんちやー}童達一に諭まし ^{しきん}世間ぬ戒み ^{いまし}習すどう ^{ぼんや}我んや願ゆる ^{デンサ}デンサ
- 五. ^ぼ我が島ぬ ^{とうしゆり}年寄や ^{しま}くぬ島ぬ ^{たから}宝 ^{ふあーまー}子孫ぬたみに ^{いちまでいん}いちまでいん ^{なが}永らいたぼり ^{デンサ}デンサ

【訳】

- 一. 上原村のデンサ節は昔から伝わる歌である 私の思いをうたいますので聞いてください
- 二. 国や家を治めることは舟乗りと同じである 舟頭も舟子も親子も心を一つにしなければいけない
- 三. 親子の美しさのは子どもから 兄弟の美しさは弟から 家庭が美しいのは嫁の方から
- 四. デンサ節を作って 子どもたちに諭し 世間の戒めを教えていけるよう 私は願っています
- 五. 我が島の年寄は この島の宝である 子孫のために いつまでもお元気でいてください



(10)下原節（そんばれぶし） 西表島(祖納) / 眞謝マリナ・古見光

《下原節》は《デンサ節》と並ぶ教訓歌です。下原村は祖納村の小村の一つですが、上村の下にあることから、下村とも言われます。現在の新盛家あたりになります。「賢い男と馬鹿な男」そして「賢い女と馬鹿な女」を対比して歌っているのが面白く、「女の縁の下の力で男は出世もできた」、男女が共に助け合ってこそ素晴らしいとうたっています。



【歌詞】

- 一、下原^{すんばれ}ぬ何^{なに}んがし ハイヨース たんでいとうどう翁^{うな}長^{なが}主^{しやう}前^{まへ} 水^み穂^ほ田^たばく^くい作^{ちく}らした^{ぼり}ばり
桃^{とう}仲^{なか}家^かぬマ^まラ^らタ^たラ^らさ^さげ^{どう} 片^{かた}鬘^{まき}まんぶ^ぶち^ちま^まれる スーザ^すシ^しテ^てー スザ^すシ^しテ^てー
- 二、山^{やま}戸^とざ^ざぬナ^なマ^まブ^ぶリ^り者^{もの}ハイヨース チク^{ちく}ヌ^ぬブ^ぶネ^ね振^ひり^りゃ^り捨^すて^てい モー^もガ^がな^なば^ばさ^さり^き
にん^{にん}し^しき^きたり^りふ^ふん^んし^しき^きたり チク^{ちく}ヌ^ぬブ^ぶネ^ねき^きめ^めっ^っさ^さで^でい^い思^しま^まり チ^ちン^んダ^だラ^らサ^さー キ^きム^むヤ^やニ^にサ^さー
- 三、眞^ま佐^さ礼^れざ^ざぬウ^うイ^いチ^ち者^{もの}ハイヨース モー^もガ^がナ^なー^バ振^ひり^りゃ^り捨^すて^てい チク^{ちく}ヌ^ぬブ^ぶネ^ねさ^さり^き
手^て助^しき^き足^{あし}助^{すけ}き^きう^うさ^さい^いだ^だり 佐^さ事^じ補^ほ佐^さん 筑^{つく}補^ほ佐^さん^{なり}け^{ける} アー^あシ^しニ^にシー イー^いシ^しニ^にシー
- 四、う^うら^ら一^{いち}人^{にん}や^やれ^れら^らば^ばモ^もー^ザビ^びケ^けー ハイヨース 御^ご代^{だい}な^など^どう^うら^らま^まれ^れり う^うら^らと^とう^うば^ばん^んと^とう^うぬ
う^うち^ちゃ^ちし^した^たら^らど^どう 佐^さ事^じ補^ほ佐^さん 筑^{つく}補^ほ佐^さん^{なり}け^{ける} アー^あシ^しニ^にシー^うち^ちゃ^ちし^した^たら^らど^どう^やだ^だる
妻^{つま}ぬ^ぬぶ^ぶん^んき^きマ^まン^んカ^かぬ^ぬぶ^ぶん^んき^きで^でい^いど^どう^う思^しま^まり アー^あシ^しニ^にシー イー^いシ^しニ^にシー

【訳】

- 一、下原村の何とか某さんは どうかお願いいたします翁長主さま 田んぼを作らせてください
桃仲家のあのマラタラでさえも 片鬘を結っているのではないか なんとうらやましいことよ
- 二、山戸のおろか者は チクヌブネ女を振り捨てて モーガ女を嫁にしたが 仕事も公事もおくれ
てばかりで チクヌブネ女が素晴らしいとおもわれてならない なんと気の毒なことよ
- 三、眞佐礼の賢い者は モーガ女を振り捨てて チクヌブネ女を嫁にしたおかげで 手となり足と
なりもりたてたおかげで 佐事補佐にも筑補佐にも出世した あ一何とうらやましいことよ
- 四、あなた一人ならばおまえのお父さんは こんな素晴らしい出世などできなかった あなたと私が
力を合わせたからこそ 佐事補佐にも筑補佐にも出世することができた あ一何とうらやましい
ことよ

〈参考資料〉

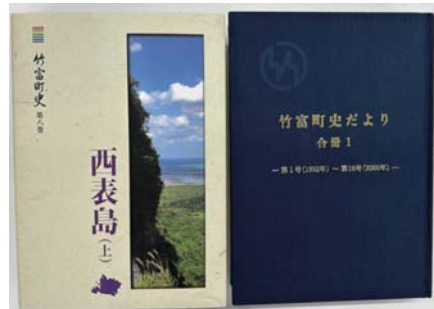
- ・竹富町教育委員会『竹富町の文化財第5集・西表島の節祭 [干立編]』1997年。
- ・石垣金星『西表民謡誌と工工四』西表をほりおこす会、2006年。
- ・當山善堂『精選八重山古典民謡集 (三)』2011年。
- ・大濱安伴『声楽譜付八重山古典民謡工工四・上巻』1993年。





2025年度 沖縄県地域史協議会 第2回研修会

**竹富町史編集事業及び
『竹富町史 第八巻 西表島』〈上巻〉、
『竹富町史だより』〈合冊1〉の発刊について**



竹富町教育委員会 社会文化課
町史編集係 米盛恭子
2025年11月4日(火)
於:南風原中央公民館黄金ホール

本日の流れ

1. 竹富町について
2. 竹富町役場、竹富町教育委員会について
3. 竹富町史編集事業について
4. 『竹富町史 第八巻 西表島』〈上巻〉と「西表島」について
5. 『竹富町史だより』〈合冊1〉について

1. 竹富町について



北緯24度線上に浮かぶ島々で成り立つ。

沖縄本島から南西に450キロメートルの八重山諸島、石垣島の南西に点在する大小16の島じま（有人島9、無人島7）からなる。

最大の島は県下でも2番目に大きい西表島、また、日本最南端の有人島波照間島・竹富島・小浜島・黒島・鳩間島・新城島・嘉弥真島の島々からなり、東シナ海と太平洋に翡翠玉のようにちらばる。

総面積334.40平方キロメートル、東西約42キロメートル、南北40キロメートルの広範囲に及び、町役場を八重山経済の中心地（石垣市）に置く、特異な行政形態となっている。

竹富町の人口・世帯 令和7年9月末(前月比)

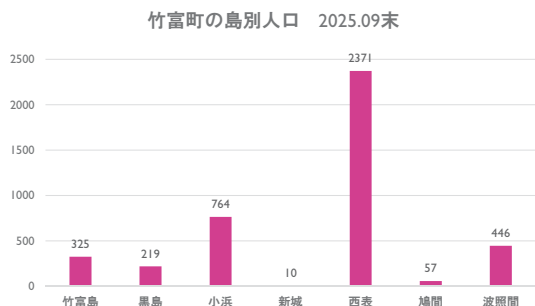


総人口: 4,192人 (△39) ※外国人含む

男: 2,197人 (△14)

女: 1,995人 (△25)

世帯数: 2,555戸 (△33)



竹富町役場

新庁舎 2022年(令和4)4月28日完成



- 5階建て
- 総事業費 33億7000万円
- 竹富町役場
- 竹富町教育委員会
- 竹富町議会事務局
- 宿泊施設など



旧庁舎、もともとボウリング場だった建物ということもあり、特徴的な外観。こちらを覚えている方も多いと思います。

2022年(令和4)4月28日新庁舎が完成。5階建て、町民の利用が多い町民係、税務課、健康づくり課など窓口部門を1階に集約。民間が運営し、石垣島での宿泊が必要な場合に利用可能な簡易宿泊施設、売店その他には竹富町社会福祉協議会、竹富町観光協会、竹富町商工会なども入っています。

姉妹町 北海道斜里町

日本列島の東北端と西南端にそれぞれ原始性豊かな「知床国立公園」と「西表石垣国立公園」を抱える両町はその優れた自然環境を整備し、美しい豊かな日本の国づくりと、人類生存の基盤である自然の保護に寄与しようと、昭和48年1月10日、姉妹町の盟約書を取り交わしました。



友好都市 長崎県対馬市

竹富町と対馬市は、ヤマネコが生息する島を有する、国内では両市町以外にはない特別な繋がりがあることに鑑み、平成27年10月8日西表島において「ヤマネコ愛！ランド共同宣言」を行い、人とヤマネコが共生できる環境づくりを推進するとともに、豊かな自然環境を未来に残し、将来世代に繋いでいくために両市町で連携・協力することを確認しました。



とらっち
【由来】ツシマヤマネコの別称「とらやま」と、対馬の方言の語尾「〜ち」を合わせました。



友好都市協定締結
今年は10周年

びかりやー
伝説のヤマビカリヤーをもとに考えられた。



竹富町教育委員会

教育委員会は、2階の約半分のフロアにあり、総務課、教育課、社会文化課の3課で構成され、町史編集係は、社会文化課に属しています。

総務課

総務係、施設係（教育予算、人事、奨学金、スクールバス、学校施設、給食費など）

教育課

学校教育係（学校教育、就学援助、学校保健、学校図書館、ALT、ICT、鳩間島留学など）

社会文化課

社会教育係（社会教育、生涯学習など）

文化財係（史跡名勝、天然記念物、埋蔵文化財、民俗文化振興、文化財など）

町史編集係（町史編集、調査、収集など）

社会体育係（スポーツ少年団、社会体育、やまねこマラソンなど）



竹富町立学校

町内の学校は、全12校。西表島内7校、各島には小中学校が1校ずつ。



竹富町立学校		
1	竹富小中学校	竹富島
2	小浜小中学校	小浜島
3	黒島小中学校	黒島
4	鳩間小中学校	鳩間島
5	波照間小中学校	波照間島
6	大原小学校	西表島
7	大原中学校	西表島
8	船浦中学校	西表島
9	上原小学校	西表島
10	西表小中学校	西表島
11	白浜小学校	西表島
12	船浮小中学校	西表島

古見小学校 2023年度末で閉校し、大原小学校と統合。

竹富町史編集組織及び専門部会 (2025年現在)

1 竹富町史編集委員 (15人)・・・20人以内。編集委員会を年2回開催。

2 専門部会・小委員会・・・必要に応じて召集。委員会に報告。

- ・「西表島編」専門部会 (6人)
- ・「黒島編」専門部会 (2人)
- ・「自然編」〈ビジュアル版〉 (3人)
- ・「郷友会編」小委員会 (9人)

3 事務局 教育委員会社会文化課

- 佐事安弘 (教育長)
- 西波照間優 (課長)
- 古見文志 (課長補佐)
- 根原裕美子 (課長補佐)
- 飯田泰彦 (町史編集係係長)
- 米盛恭子 (町史編集係主査)
- 上原美紀 (町史編集係会計年度任用職員)



第47回町史編集委員会の様子

事務局の変遷 (2025年現在)

『竹富町誌』(1974年)、『町制三十年のあゆみ』(1978年)の編集発刊の成果を踏まえ、竹富町制施行40周年記念文化事業の一環として、1988年(昭和63)に取り組みを開始しました。

●竹富町史編集室

(1990〈平成2〉年3月～2006〈同18〉年3月)

●竹富町総務課 竹富町史編集係

(2006〈平成18〉年4月～2008〈同20〉年3月)

●竹富町教育委員会総務課 竹富町史編集係

(2008〈平成20〉年4月～2017〈同29〉年3月)

●竹富町教育委員会社会文化課 竹富町史編集係

(2017〈平成29〉年4月～現在に至る)



どちらも、よく使っている資料です。

通事孝作「竹富町史編集事業の歩み」『竹富町史だより』〈合冊1〉615～641頁

竹富町史編集事業 (2025年現在)

竹富町史は、大別して「**通史編**」「**島じま編**」「**資料編**」を三本柱としています。2009年(平成21)に『竹富町史 第十巻 資料編 近代5』の発刊後、執筆者やインフォーマントの高齢化を第一の理由に、軸足を「資料編」から「島じま編」に移して取り組んでいます。

◆竹富町史刊行物・・・(刊行年)

第一巻	通史編	
第二巻	「竹富島」	(2011年)
第三巻	「小浜島」	(2011年)
第四巻	「黒島」	
第五巻	「新城島」	(2013年)
第六巻	「鳩間島」	(2015年)
第七巻	「波照間島」	(2018年)
第八巻	「西表島」〈上巻〉〈下巻〉	(上巻・2025年)

そのほかにも、2冊の写真集を発刊しており、現在は写真のアーカイブ化に向けデジタル化を進めているところです。



第十巻	資料編「近代1-喜宝院菟集館文書」	・・・	(2005年)
	資料編「近代2-必要書・必要書類集」	・・・	(2002年)
	資料編「近代3-新城村頭の日誌」	・・・	(2006年)
	資料編「近代4-官報にみる八重山」	・・・	(2007年)
	資料編「近代5-波照間島近代資料集」	・・・	(2009年)
第十一巻	資料編「新聞集成I」	・・・	(1994年)
	資料編「新聞集成II」	・・・	(1995年)
	資料編「新聞集成III」	・・・	(1997年)
	資料編「新聞集成IV」	・・・	(2001年)
	資料編「新聞集成V」	・・・	(2003年)
	資料編「新聞集成VI」	・・・	(2004年)
	資料編「新聞集成VII」	・・・	(2019年)
	資料編「新聞集成VIII」	・・・	(2021年)
	資料編「新聞集成IX」	・・・	
	資料編「新聞集成X」	・・・	
	資料編「新聞集成XI」	・・・	
	資料編「新聞集成XII」	・・・	
	資料編「新聞集成XIII」	・・・	
第十二巻	資料編「戦争体験記録」	・・・	(1996年)
	資料集① 釜田義司日記	・・・	(2000年)
	資料編「郷友会」	・・・	
	資料編「自然編」〈ビジュアル版〉	・・・	

別巻① 通史編・総索引
 別巻② 竹富町関係文献目録 ・・・ (1990年)
 別巻③ 写真集「ばいぬしまじま」 ・・・ (1993年)
 竹富町政施行50周年記念誌『ばいぬしまじま50』 ・・・ (1998年)
 竹富町史だより 合冊1 ・・・ (2025年)

現在、竹富町史編集事業の中核をなしているのが「島じま編」といえますが、『西表島・上巻』が発刊され、計6冊の『島じま編』ができています。残すところ『西表島・下巻』と『黒島』の2冊になりました。

4. 『西表島編』及び「西表島」について

- (1) 『西表島編』 専門部会について
- (2) 『西表島編』 の主な経過
- (3) 『西表島編』 構成の変遷について
- (4) 西表島について～『西表島編』 に沿った主な事項から～
 - ①西表島の概況と歴史
 - ②カラーグラビア
 - ③地図「西表島祿山時代・13部落区分図」の地図、「八重山群島略図」
 - ④写真「宇多良炭坑」写真、「十条製紙」写真、「八重山土木事務所記念誌」写真
- (5) 『西表島編』 〈上巻〉の編集を通して

『西表島編』の編集について、『西表島編』の専門部会、発刊までの主な経過や構成の変遷の説明と、本編に沿って、西表島の概況や歴史、掲載したカラーグラビアや地図、写真などを中心に紹介したいと思います。



(1) 『西表島編』 専門部会について

これまで部会長をつとめていた石垣金星部会長が2022年逝去され、新たに里井洋一部会長をはじめとし、計6名に加え2名のオブザーバーの委員がいらっしゃいます。

◆部会委員（6名）

里井洋一（部会長）、大浜修（副部会長）、池田克史、波照間永吉、花井正光、三木健

◆オブザーバー（2名）

歴史分野：石垣久雄（町史編集委員長）、通事孝作（町史編集委員）



(2) 『西表島編』 の主な経過

2006年04月 第1回専門部会開催。

2007年03月14日 第2回専門部会開催。

2008年07月21日 第3回専門部会開催。

2009年02月22日 第4回専門部会開催。

12月04日 22人に執筆依頼。

2009年12月11日 第5回専門部会開催。

2012年03月10日 第6回専門部会開催（編集計画見直し）。

2013年02月 第30回竹富町史編集委員会（分冊提案→承認）。

→仮に「伝統的集落編」「開拓集落編」とする。

再検討の必要あり。

2006年04月に、第1回専門部会開催。その後5年間ほどは、1年に1回のペースで専門部会が開催され、2009年12月には22人に執筆依頼を行っています。執筆原稿の締め切りを設けたものの、原稿の提出状況が悪かったこともあり、編集計画見直しを余儀なくされました。2012年には、編集委員会に分冊の提案を行い承認されています。

分冊の構成については、後ほどまとめて述べたいと思います。



2022年11月15日 第19回西表島編専門部会開催。

2022年6月30日、石垣金星部会長の逝去を受け、里井洋一副部会長が部会長代理として、活動を継続してきましたが改めて部会長、副部会長を選任し継続して活動していくことになりました。

2022年12月02日 第44回竹富町史編集委員会にて進捗状況を報告。

2023年07月29日 『西表島編』の進捗状況及び事務局作業について確認。

2024年04月 執筆者との校正原稿確認。写真、図、使用許可申請、許可書受理。

08月～ 南山舎との校正原稿チェック。南山舎、執筆者へ随時返送。

08月09日 第20回西表島編専門部会開催。発刊スケジュールの確認。

【上巻】10月原稿修正校正-11月補正予算申請-12月議会-3月印刷（令和6年度刊行）

【下巻】未定（令和6年度以降）。写真について一表紙、巻頭、本文で使用する写真の選定と使用申請を随時進めている。参考文献について一脚注の文献確認と番号のチェック。

南山舎との校正原稿のやり取りを行い令和6年度完成予定。

12月06日 第48回竹富町史編集委員会にて経過報告。

2025年2月28日 各執筆者への最終確認及び版下原稿最終確認。

2025年3月31日 『竹富町史 第八巻 西表島』〈上巻〉発刊。

2025年8月22日 第49回竹富町史編集委員会にて発刊報告及び記者発表。

役場移転、部会長の逝去、原典確認の遅れに加え、世界遺産登録による本文の書き換えや変更もあり、編集スケジュールの見直し承認を、町史編集委員会にお願い。当初〈上巻〉と同時進行で〈下巻〉の版下制作を行う予定であったが、まずは〈上巻〉の印刷製本に専念し、〈下巻〉の発刊については保留されました。

直前まで、校正原稿の確認を行い、令和6年度中に発刊することができました。その後、8月の編集委員会で発刊報告と記者発表を行いました。



（3）『西表島編』2分冊構成の変遷について

『西表島編』は、上巻・下巻2冊の構成が確定されるまでに、何度も検討が重ねられました。

○「東部編」「西部編」

○「伝統的集落編」「開拓集落編」

○「歴史と自然編」「人の暮らし編」など

最終的に

上巻「歴史、教育、交通」

下巻「自然と人の暮らし、文化」



他の巻と同様に1冊にまとめる案も何度も検討されましたが、最終的に上巻「歴史、教育、交通」、下巻「自然と人の暮らし、文化」を中心とする2分冊の構成で確定されました。

他の島じま編との構成の比較

各島じま編の主な章立て

カラーグラビア
巻頭地図
凡例
序章
第1章 島の概況
第2章 自然
第3章 歴史
第4章 教育
第5章 人と暮らし
第6章 信仰と祭祀
第7章 人生儀礼
第8章 民間伝承
第9章 生業
第10章 交通・交易・運輸・通信
第11章 保健・衛生
第12章 伝統文化
第13章 娯楽・競技
第14章 人物
第15章 年表
終章
編集後記、執筆者一覧、
編集スタッフ、資料提供、奥付

『西表島編』(上巻)

カラーグラビア
巻頭地図(2頁)
凡例
序章
第1章 島の概況
第2章 自然
第3章 歴史
第4章 教育
第5章 交通・交易・運輸・通信
第6章 年表
編集後記、執筆者一覧、
編集スタッフ、資料提供、奥付

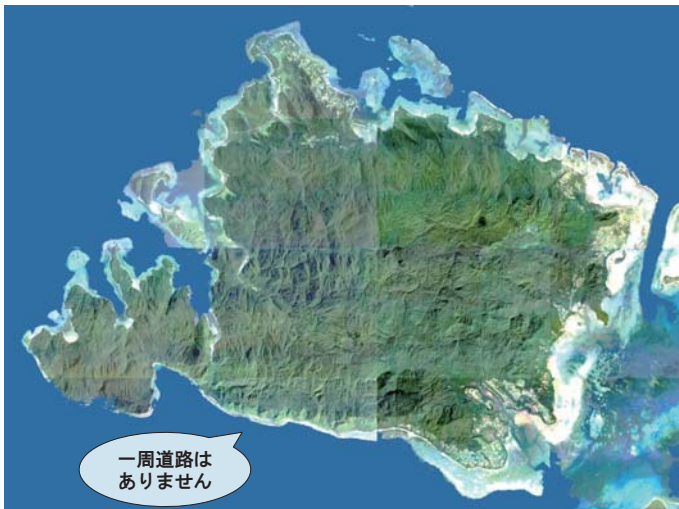
『西表島編』(下巻)

カラーグラビア
凡例
第7章 人と暮らし
第8章 信仰と祭祀
第9章 人生儀礼
第10章 **民俗知識**
家造り、舟造り、民具づくり
第11章 民間伝承
第12章 生業
第13章 保健・衛生
第14章 伝統文化
第15章 娯楽・競技
第16章 人物
終章
編集後記、執筆者一覧、
編集スタッフ、資料提供、奥付

新たに
「民俗知識」
を加えました

(4) 西表島について～『西表島編』に沿って～

①西表島の概況と歴史



一周道路は
ありません

西表島は沖縄本島に次ぐ大きな島で竹富町の主島ともいえます。島の東南部を「東部」、北西部を「西部」と言っています。

集落は沿岸部に点在し、島の大半は山岳地帯で亜熱帯照葉樹の原生林に覆われています。



巻頭① 西表島衛星画像 [提供：環境省国際サンゴ礁モニタリングセンター]

『西表島マナーブック』(沖縄県)より

序章

西表島稼山時代13部落区分図

西表島は島々の「共有財産」だった



西表島は、近隣の島々の「共有財産」だったといわれますが、序章の「西表島稼山時代・13部落区分図」の地図を見るとそのことがよく理解できます。

区分図は、琉球王府の杣山制度が始まった1741年(乾隆41)から明治の中葉まで、西表島が竹富町の島々の入会地として利用されていたことを物語っています。区分は新城山を除いて、それぞれの島に近い距離に位置しています。

家造りのための材木や茅、薪や食糧となる動植物を採取できるなど、西表島は、動植物を育むだけでなく、竹富町の島々の人々の生活を支えてきた宝の島でもあるといえます。

13部落:西表山、上原山、鳩間山、小浜山、高那山、古見山、竹富山、仲間山、黒島山、南風見山、波照間山、崎山山、新城山。

周辺の島々の人々にとっては「実りの山」「宝の山」だった。

「西表島稼山時代13部落区分図」東京大学大学院法学政治学研究所附属近代日本法政史料センター所蔵

序章

琉球弧唯一の石炭産業

明治時代になると、県内唯一の炭層をもった島として注目され、石炭産業がおこりました。近代日本を支えた炭坑産業でしたが、アジア・太平洋戦争後は、西表島から炭坑会社も消えてしまいました。



「宇多良炭坑」

丸三炭鉱宇多良鉱業所の全景

切り開いたジャングルに十数棟の坑夫納屋、風呂場、食堂、売店のほか、神社や300人収容できる劇場もありました。太平洋戦争による増産による過重労働とマリアのまん延により、坑夫たちは出るに不出られぬ「緑の牢獄」にあえぎました。



(左) 炭坑夫たち。
(右) 炭坑内でしか使用できなかった炭坑切符と坑内で使用したカンテラ。

戦後の入植開拓

戦後は農業を基盤とした伝統的な集落だけでなく、再び西表島に開拓移民が入植し始め、新しい集落が形成されました。



カラーグラビアの効果

カラーのイメージを残しつつ、本文へ誘う

『竹富町史』の製本上、本文は白黒印刷となり、カラーで写真や図が見られるのは、巻頭のこの部分しかありません。本文を読み進めていくうえでも、巻頭のカラー写真のイメージを残しつつ、読み手の皆さんにより理解してもらうために、カラーグラビアは大切だと思います。

写真の使用

執筆者が多いと、同じ写真を使用することもあり、本文と比較しながら写真を選定した。



有田静人氏（竹富島出身・新聞記者）より、1960年代に撮影された西表島開発（十条製紙）の写真や浦内橋建設工事の写真などの提供があり、重複していた写真を差し替えることができました。また、県公文書館所蔵のデジタルアーカイブより、多くの写真を掲載、閲覧することができたことは、当時の様子を理解するうえでも大変ありがたかったです。



発刊が遅れたことにより、新たな写真の発見などもあったことは、良かったことの一つかもしれません。

（5）『西表島編』〈上巻〉の編集を通して

○画像・写真・表など

画像がぼんやりしているものや、写真がないものは撮影をお願いしたり、自分で撮影したり。改めて図や表を作成するには時間がかかるが、見にくいグラフは作り直しました。

執筆者が多いと、重複している画像や写真や表、グラフが多くあり、全体を通して原稿を整えることが大事だと思いました。

○校正原稿を執筆者へ返送して校了までに時間がかかりました。

執筆者の多くが近隣の方ではなかったことや、初回の原稿提出から時間が経っていたことなどもあり、執筆者と連絡を取ることが大変でした。

執筆者によっては、10年以上前に提出された原稿であるため、再度見直しが必要だったり、引用文献が執筆者の手元に無かったりしたこともあり、再構成が必要な原稿も多かったです。

また、メールを送ったら、日本にいらっしゃらない方や、高齢でメールができないので、郵送で何度も確認をお願いした方もいらっしゃいました。

○係が3人しかいないので、日常業務をしながらの編集が大変でした。突発的な問い合わせなどへの対応も大変でした。

○新型コロナのまん延や世界自然遺産登録、古見小学校の閉校、複合施設の建設など、編集作業をする中でも日々いろいろな出来事が更新されていきました。書き加えられたところ、書き加えられなかったところ、反省しても足りないくらい編集作業の難しさを痛感しました。「あれも入れたい、これも入れたい」と思えば思うほど、終わりがなく、編集委員の先生方からは、「もう、出ている分で発刊しなさい。」「後は次の人たちの仕事だよ。」などと励まされ、どうにか上巻を発行することができました。

○私自身西表島で育って、生活してきましたが、わかっていなかったことも多くあり、学ぶことが沢山ありました。上巻の反省を生かしながら、下巻の発刊まで、精一杯編集していきたいと思えます。

5. 『竹富町史だより』〈合冊1〉について

(1) 『竹富町史だより』について

『竹富町史だより』は、「**町民参加の町史づくり**」を副題として、30年余にわたって刊行されてきました。最新号は2025年8月発行〈第56号〉です。



表紙も掲載内容もバラエティー豊か

(2) 『竹富町史だより』合冊発刊のメリット



今回発刊した『合冊1』は、「創刊号」から「第18号」までを1冊にまとめました。

『竹富町史だより』の1冊ごとの厚さが薄いことから、破損・散佚で欠号が生じやすかったが、合冊することにより保存性の向上が見込まれます。また、書架の整理も単純・合理化でき、求める史資料にアクセスしやすくなるというメリットも期待できます。

(3) 『竹富町史だより』の内容

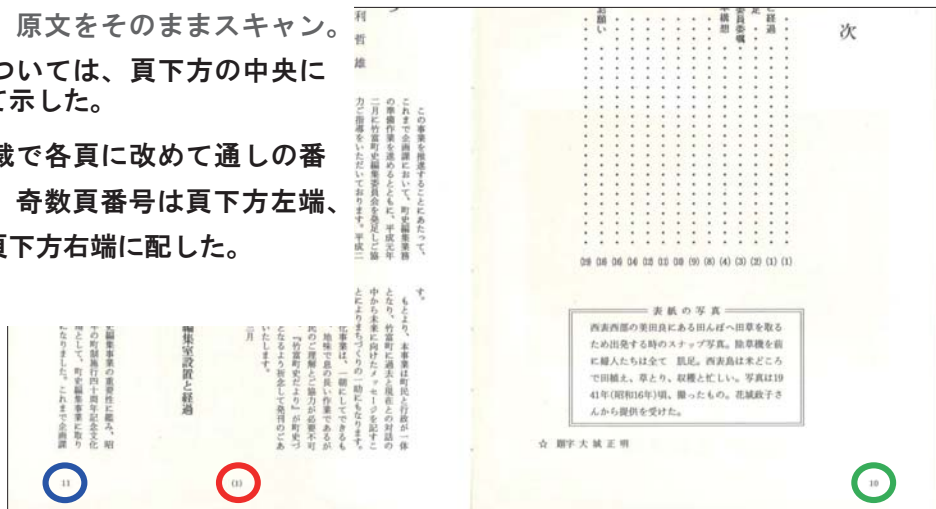
「写真にみるわが町」「文化財探訪」「聖地めぐり」など

連載のほか、各号のテーマの選択も自由度が高く、バラエティーに富んでいます。しかし、創刊号(第1号)に提起された「竹富町史編集基本構想」により、島人が座標軸となり、科学的視点に立った編集方針が、各号に通底して統一感を保っているように思われます。



(4) 『竹富町史だより』〈合冊1〉の体裁

- ・「本文」は、原文をそのままスキャン。
- ・各号の頁については、頁下方の中央に()で括って示した。
- ・合冊本の体裁で各頁に改めて通しの番号を付したが、奇数頁番号は頁下方左端、偶数頁番号は頁下方右端に配した。



『竹富町史だより』〈第57号〉の掲載にあたり、2025年（令和7）11月4日南風原中央公民館黄金ホールで開催されました「2025（令和7）年度沖縄県地域史協議会第2回研修会」で発表した原稿を一部抜粋して再構成しました。

沖縄県地域史協議会（代表・新里歩）は、1978年（昭和53）「地域史編集関係者相互の情報と資料の交換と親睦を図るとともに、史資料の発掘・収集を推進し、市町村史（誌）等の地域史づくりの発展と地域文化の振興に寄与することを目的（地域史協議会・会則 第1条）」に設立され、2025年（令和7）4月現在、一般会員72名、特別会員36機関で組織されています。

毎年2回開催されている研修会では、総会、開催地の巡見、基調講演、報告会などが行われます。県内各地で地域史づくりにたずさわっている会員が一堂に会し、交流することができる貴重な時間です。お互いの活動を知ること、業務の効率化はもとより、他者の取り組みから刺激を受けたり、新たな発見や各自の問題解決につながったりすることも多くあります。

今回の発表を通して、竹富町史の取り組みや『西表島・上巻』、『町史だより・合冊1』の発刊について改めて振り返ることができ、今後の編集に活かしていきたいと思いました。

沖縄環太平洋国際映画祭

第2回 Cinema at Sea – 巡回映画祭 in 竹富町

(竹富島 ・ 波照間島)



Cinema at Sea

太平洋、海をまなざし、海を知る。

昨年11月、沖縄県那覇市を中心にスタートした新たな国際映画祭「Cinema at Sea 沖縄環太平洋国際映画祭」が「Cinema at Sea」をコンセプトに開催し、各地の発信を通して、各言語の文化や価値、個人の相互理解を深め、将来的に沖縄が環太平洋地域において新たな国際文化交流の場となることを目指しています。

第二回は2025年2月下旬に開催いたします。

《第2回Cinema at Sea パシフィックフィルムショーケース上映作品》 2026.1.9(金) 開場:19:00 / 上映:19:30

パシフィック・マザー
Pacific Mother

監督:キヤサリン・マックラエ / ニュージーランド、日本 / 89分 / 2023年

沖縄出身の俳優でフリーダイバーの瑞本幸子と、フリーダイビング世界チャンピオンである彼女のパートナー、カイア・マックラエの物語は、伝統的社会的出産の慣習、地域コミュニティのサポートの重要性、そして海洋環境保全の深い繋がりを探るため、日本からハワイ、タヒチ、クック諸島、アオアロア(ニュージーランド)と、太平洋を横断する旅に出る。

出産という、未来へ命を紡ぐ奇跡であり、何百年もの間交わることなく続いてきた生命の営みを通し、家族関係、ジェンズ(性別を振り回して回復する)、そして人と自然の相互関係を深く探る作品。

2026.1.10(土) 開場:19:00 / 上映:19:30

沖縄スパイ戦史
Boy Soldiers: The Secret War in Okinawa

監督:三上智恵、大英英代 / 日本 / 114分 / 2018年

第二次世界大戦末期、米軍が上陸し、民間人を含む20万人余りが死亡した沖縄戦。第32軍・牛島満司令官が自決する1945年6月23日までに「島の戦争」なら、北部ではアメリカ軍やスパイ戦など島の戦争が起った。沖縄に動員され、故郷の山に籠って米兵たちを襲撃したのは、まだ10代半ばの少年たち。彼らを「密着隊」として通称し、「密着隊」のスキルを仕込んだのが日本軍の特務機関、あの「陸軍中野学校」出身のエリート青年将校たちだった。

1944年の晩秋、22名の「陸軍中野学校」出身者が沖縄に降った。ある者は偽名を使い、学校の教員として難民に配属された。身分を隠し、沖縄の各地に潜伏していた彼らの真の目的とは、そして彼らがもたらした惨劇とは……。

上映後：大英英代監督によるトークイベントあり

※尚早により、予告なく収録が中止になる場合がございます。予めご了承くださいませ。

アクセス

《竹富島会場》 竹富町竹富島まちなみ館 〒907-1101 沖縄県八重山郡竹富町 竹富430

《波照間島会場》 波照間農村集落センター 〒907-1751 沖縄県八重山郡竹富町 波照間2772

問合せ先: ☎0980-87-6257 (竹富町教育委員会社会文化課)

映画祭公式サイト



Cinema at Sea 沖縄環太平洋巡回映画祭とは

Cinema at Sea 沖縄環太平洋巡回映画祭は、「海で繋がる」ことに焦点を当てた国際映画祭です。竹富町は、琉球列島の最南端八重山諸島に属し、海に囲まれた16の島々(9つの有人島と7つの無人島)で構成されていますが、町内には映画館がなく、大型スクリーンで映画を鑑賞する機会もほとんどありません。

日本人の映画離れによる映画文化の衰退や映画文化の振興については、「暮らしの中での喜びや励ましを求める場合、幅広い世代に対して、映画は極めて有効なメディアであると言うことができる。映画は比較的身近な場で鑑賞が可能であり、優れた作品が与える感動は、心の糧となり明日への活力となる」と文化庁からも提言されています。映画祭を通じて、本町を含めた太平洋をとりまく島じまの暮らしや歴史・文化や結びつきについて関心や理解を深めると共に、より身近に映画を鑑賞できる機会になればと企画しています。

今年度は、竹富島で『パシフィック・マザー』、波照間島で『沖縄スパイ戦史』の2作品を上映しました。

竹富島『パシフィック・マザー』の上映

竹富島では、Cinema at Seaの理事でもあり、竹富島にルーツのある東盛あいか監督も来場、「映画館のない島での上映は、大画面で映画を鑑賞することはもちろんのこと、同じ空間で同じ時間を多くの人と共有することができるのも映画会の素晴らしいところ」と話されました。上映した『パシフィック・マザー』は、沖縄、ハワイ、タヒチ、クック諸島、ニュージーランドに暮らす、海と

共に生きる女性たちの出産の物語を通じて、人と海、そしてコミュニティのつながりについて問いかけるドキュメンタリー映画です。映画を通して、今の日本では出産する方法を選ぶ権利や選択肢がこれほどまでに少ないのかということに驚きましたし、日本だけでなく世界中に出産に関する禁忌や伝承が多く存在し、今なお継承されていることにも驚かされました。

妊娠出産に関して、『竹富町史 第2巻 竹富島』(527～529頁)には、「妊娠すると安産のためにいろいろな禁忌や呪法がある」「胞衣(えな)(胎盤)は家の裏の軒下で雨のかからない所に埋めた」。『竹富町史 第6巻 鳩間島』(401～402頁)には、「胞衣(えな)(胎盤)は雨がかからないように、家の後ろの軒下に埋めた。そして、イヌやネコがほじくり出さないように大きなシャコガイの殻をかぶせた。その上を最初に通る生き物、ネズミなどをその子は生涯恐れるともいった。」などが記載されています。

◆『パシフィック・マザー』

監督：キャサリン・マックラエ

2023年製作／89分／G／ニュージーランド・日本合作

原題または英題：Pacific Mother

劇場公開日：2025年10月31日

会場 竹富島 竹富島まちなみ館

日時 2026年1月9日(金) 19時半～21時半

〈第2回Cinema at Sea パシフィックフィルムショーケース上映作品〉 2026.1.9(金) 開場:19:00 / 上映:19:30
竹富島会場 竹富町竹富島まちなみ館

パシフィック・マザー
Pacific Mother



監督：キャサリン・マックラエ / ニュージーランド、日本 / 89分 / 2023年

沖縄出身の俳優でフリーダイバーの福本幸子と、フリーダイビング世界チャンピオンである彼女のパートナー、ウィリアム・トゥルブリッジは、伝統的社会的出産の慣習、地域コミュニティのサポートの重要性、そして海洋環境保全の深い繋がりを探るため、日本からハワイ、タヒチ、クック諸島、アオテアロア(ニュージーランド)と、太平洋を横断する旅に出る。

出産という、未来へ命を紡ぐ奇跡であり、何億年もの間変わることなく続いてきた生命の営みを通し、家族関係、レジリエンス(困難を乗り越えて回復する力)、そして人と自然の相互関係を深く探る作品。

© 2023 Pacific Mother Film



波照間島『沖繩スパイ戦史』の上映

波照間島では、上映作品『沖繩スパイ戦史』の監督の一人、大矢英代監督も来場し上映の前後にお話しくださいました。普段はアメリカにお住まいの大矢監督が、日本滞在中の波照間島上映ということもあり、かけつけてくださいました。

学生時代から八重山の戦争被害に関する調査を続け、波照間島で約1年間生活しながら取材や撮影をしてきたことから、実家に帰る気持ち、親戚に会う気持ちでの帰島になったとのことでした。「撮影から7年が経過し、久しぶりに映画を観たが、今まさに沖縄戦のような状況が再び近づいてきているような中で、この映画が遠い過去の悲しい出来事ではなく、ここから今にどういう風に繋がっていて、大好きで大切なベスマを未来に繋げていくために何ができるのかということ、みんな考えていく機会にできたら。そして、この映画を観た感想や思いを家族の皆さんに伝えてほしい」と話されていました。

会場からは、「識名先生が波照間のことを想って、南風見田の石に刻んだ忘勿石のことなども知ってはいたが、映画を観なければわからなかったことも沢山あった。今日は本当に勉強になった。」などの感想が寄せられました。
(町史編集係・米盛 恭子)

◆『沖繩スパイ戦史』

監督：三上智恵、大矢英代

2018/日本/DCP/114分/ドキュメンタリー

劇場公開日：2018年7月28日

会場 波照間島 波照間農村集落センター

日時 2026年1月10日(土) 19時半～22時

沖繩スパイ戦史
Boy Soldiers: The Secret War in Okinawa

2026.1.10(土) 開場:19:00/上映:19:30
波照間島会場 波照間農村集落センター

監督:三上智恵、大矢英代/日本/114分/2018年

第二次世界大戦末期、米軍が上陸し、民間人を含む20万人余りが死亡した沖縄戦。第32軍・牛島満司令官が自決する1945年6月23日までが「表の戦争」なら、北部ではゲリラ戦やスパイ戦など「裏の戦争」が続いた。作戦に動員され、故郷の山に籠って米兵たちを翻弄したのは、まだ10代半ばの少年たち。彼らを「護郷隊」として組織し、「秘密戦」のスキルを仕込んだのが日本軍の特務機関、あの「陸軍中野学校」出身のエリート青年将校たちだった。1944年の晩夏、42名の「陸軍中野学校」出身者が沖縄に渡った。ある者は偽名を使い、学校の教員として離島に配置された。身分を隠し、沖縄の各地に潜伏していた彼らの真の狙いとは。そして彼らもたらした惨劇とは……。

上映後：大矢英代監督によるトークイベントあり

※事情により、予告なく登壇が中止になる場合がございます。予めご了承くださいませ。



アンケート集計

『パシフィック・マザー』アンケート集計

1 年齢・性別

男性 3 女性 11 合計 14

10 代3人(男0、女3)

30 代2人(男2、女0)

40 代2人(男0、女2)

50 代3人(男0、女3)

60 代1人(男1、女0)

70 代2人(男0、女2)

80 代1人(男0、女1)

2 映画の内容について、全体的な満足度を教えてください。

[とても満足3人、満足9人、普通2人、不満0人、とても不満0人]

3 映画で取り上げられたテーマは理解しやすかったですか？

[とても理解しやすい3人、理解しやすい7人、普通3人、理解しにくい1人、全く理解できなかった0人]

4 上映後の感想を共有する時間があつたら参加したいと思えますか？

[はい6人、いいえ0人、どちらともいえない7人、無回答1人]

5 ご意見・ご感想があれば自由にお書きください。(自由記述)

▷「たまたま町内アナウンスで知って来てみたらずっと見たいと思っていた映画でした！もう出産予定はないですが、胎盤のことやいろいろ知る事が出来て、11才の娘にもたまたま見せる事が出来よかったです。ありがとうございました♡」(女性)

▷「良い経験が出来て良かったです。ありがとうございました。」(10代・女性)

▷「妻と娘も一緒に見れたらよかった。またの機会是一緒に来たい。」(30代・男性)

▷「3回目でしたが前2回では気づく事ができなかったメッセージや瞬間を見る事ができました。「又みたい」「もっと色んな人に見てもらいたい」と思っていたのをたまたま見る事ができ pacific との繋がりを再確認する事ができました。ありがとうございました。Pacific の仲間たちにもシェアしてきます！！」(30代・男性)

▷「TVの画面ではない、大きなスクリーンでみる映画はやっぱり、迫力や体感が素晴らしいです。これからも皆を楽しませる活動、がんばって下さい。」(40代・女性)

▷「ありがとうございました。竹富島で観れて良かったです。又、来年も、よろしくおねがいします。」(50代・女性)

▷「3人の子供を出産しましたが、こんな風に向き合っただけの出産だっただろうか…？と考えさせられました。女性の力強さがとても伝わり感動しました。」(50代・女性)

▷「衝撃的な内容でした。海はきれいでした。映画は好きなので次も見に来たいと思います。できれば孫たちと楽しめるのが良いです。」(70代・女性)

『沖縄スパイ戦史』アンケート集計

1 年齢・性別

男性9 女性11 無回答1 合計21

- 10 代2人(男2、女0)
- 20 代1人(男0、女1)
- 30 代1人(男0、女1)
- 40 代2人(男0、女2)
- 50 代3人(男1、女2)
- 60 代5人(男4、女1)
- 70 代7人(男2、女4、無1)

2 映画の内容について、全体的な満足度を教えてください。

[とても満足9人、満足9人、普通3人、不満0人、とても不満0人]

3 映画で取り上げられたテーマは理解しやすかったですか？

[とても理解しやすい6人、理解しやすい10人、普通3人、理解しにくい1人、全く理解できなかった0人]

4 上映後の感想を共有する時間があつたら参加したいと思いませんか？

[はい11人、いいえ0人、どちらともいえない9人、無回答1人]

5 ご意見・ご感想があれば自由にお書きください。(自由記述)

▷「これからかならず戦争をしてはいけないと強く感じた。」(10代・男性)

▷「正直、上映会に来るのは過去の現実を深く知ることに、恐怖心があり来るか迷っていました。それでも映画を見て、知るべきことを学べたように思います。日頃から今の社会、国に対して浮かんている不心感や怖さへのパズルが埋まるように感じました。今日は子供たち2人と来ました。彼らがどのように理解したか分かりませんが、今そしてこれからの自分と周りの人たちのことを考える時、今日この映画が助けになればと思います。貴重な機会をありがとうございました。」(20代・女性)

▷「戦争はぜったいダメ。」(30代・女性)

▷「とてもよかったです。もっと詳しく知りたいなと思いました。」(40代・女性)

▷「戦争を経験された人々の話を過去の悲しい話にしてしまうのではなく、今、まさに現代における重要な問題、課題としてとらえられるかどうかで映画に対する印象も変わるように感じました。子供のころから祖父母や被爆経験者の方々の話を聞いて思うことは、他責思考にならず、今生かされた命にほこりをもって生きていこうということにつきます。」(40代・女性)

▷「教員で、今年も戦争マラリアの学習、平和学習を子どもたちと学習しました。とても大きな学びになりました。黒島生まれの父からも、よく戦争の話をききました。戦争のことをもっと学んで、生徒たちに伝えたいです。」(50代・女性)

▷「波照間だけでなく、沖縄全体を包んだ計画だったんですね。」(50代・男性)

▷「私にも17歳の息子がいるので身につまる想いでした。波照間のなつかしいおじいおばあの貴重な話、唄を聞けてよかったです。またぜひ上映してほしいです。」(50代・女性)

▷「本島北部の御郷隊の出身者の地名を見て良く知っている所もありかんがい深いものがありました。使い古された言葉ですが、戦争はやっぱりやらない事が良いですね。」(60代・男性)

▷「沢山の人に見て欲しい、ありがとうございます。」(60代・女性)

▷「上映続けてほしい。」(70代・女性)

▷「大変勉強になりました。ありがとうございます。過ぎた事だと思ってましたが最近のニュースを見ると、又戦争が起きるのかな〜と不安で一杯です。」(70代・女性)

▷「平和第一であり戦争なんていやです上映を見てとっても戦争はしちやいけないと思います。」(70代・女性)

竹富町における公民館の「足跡」と連絡協議会の役割

山城 千秋 (熊本大学)

竹富町公民館連絡協議会（以下、竹公連）は、1972年3月に21単位公民館の連合組織として設立され、2022年に創立50周年を迎えた。2023年10月には白浜公民館で記念式典が行われ、2024年3月には『創立50周年記念誌 足跡 パンヌアトゥ』が刊行された。同誌には、日本復帰以降の竹公連の活動と歩みが丹念に記録されており、その蓄積は地域史資料としても高く評価されるべきものである。

しかし、公民館の歴史は竹公連の設立から始まったわけではない。戦後の竹富町では、各集落において公民館が自治と生活の中核を担ってきた。過疎化や担い手不足が深刻化し、町全体の連携が求められる現在、戦後から続く公民館の「足跡（パンヌアトゥ）」をあらためて見つめ直すことは、現在の地域連携のあり方を考える上で重要な視座となる。

戦後八重山地域で「公民館」という名称が制度上確認できるのは、1948年施行の八重山民政府制定「八重山教育基本法」である。同法は図書館や博物館と並び、公民館の設置を社会教育の柱として位置づけていた。しかし、米軍占領下で自治体財政は極めて脆弱であり、実態としては、各集落が自主的に設けていた集会施設が「公民館」と呼ばれ、制度的に普及していった経緯がある。竹富町の公民館は、行政主導で整備された公的施設ではなく、住民生活の必要性から生まれた機関なのである。

1948年、西表島住吉で開拓移民の入植が始まると、公民館は生活基盤の整備や自治活動を進める拠点として建設され、移住者同士の結束を支えた。大富では1953年に共同売店が設けられるなど、戦後に開拓された集落においても公民館は自治と生活の基盤として機能してきた。その一方で、炭鉱閉鎖による経済的困窮と生活上の孤島苦により、1971年に網取が廃村となり、公民館も姿を消した。この事実は、公民館が地域社会の存続と密接に結びついていることを端的に示しており、決して忘れてはならない出来事である。

1964年10月27日付『八重山毎日新聞』には、竹富町公民館の実践発表として、由布公民館の電灯事業、祖納公民館の経済活動、大富公民館の共同売店経営、大原公民館の図書室運営などが紹介されている。これらは、公民館活動が文化事業や学習活動にとどまらず、産業振興や生活基盤整備にまで及んでいたことを示すものである。とりわけ大原公民館の図書室は、公共図書館が設置困難な状況下で、公民館が読書・図書普及の場を担い、青年会が中心となって図書を集めた点で注目される。公民館が産業、生活、文化を横断的に支えていたことを、これらの事例は如実に物語っている。

さらに、『竹公連創立15周年記念誌』（1985年）には、米軍統治下には高等弁務官資金の援助を受けて建設された公民館も存在したと記載されている。竹富・船浦・中野公民館などがその例であるが、この事実は、一般には十分に認知されていないことである。老朽化が進む現存施設については、未来に向けてその建設経緯や利用の実態を含めた調査と記録を今後進めていく必要があるだろう。

多島町である竹富町では、集落単位の自治を尊重しつつ、島々をつなぐ相互連携が不可欠である。竹公連は設立以来、各公民館をつなぐ人的ネットワークを築き、協働関係を維持してきた。しかし、1980年に中央公民館建設計画が中止されて以降、町は公立公民館を持たないまま推移してきており、過疎化や人材育成、産業振興といった課題への対応について、各自治公民館の努力に大きく依存する構造が続いている。

戦後から積み重ねられてきた公民館の「足跡」は、各集落と集落民が自ら課題に向き合い、連帯によって乗り越えてきた歴史でもある。竹公連がその経験とネットワークを生かし、竹富町民が世代や島を越えて集い、学び、協働できる場づくりにどのような役割を果たしていくのか。今こそ、その可能性を具体的に再構想していく時期にきているのではないだろうか。

（『八重山毎日新聞』2026年1月26日掲載）



首都圏における八重山に由来する郷友会覚書

竹富町史郷友会編専門部会

有田 静人

竹富町史編集委員会では、編集事業の一つとして「郷友会編」（仮名）の刊行を計画している。令和7（2025）年には、竹富町史編集委員会の下部組織として、「郷友会」の刊行を目的とした専門部会を発足させ、いよいよ本格的な編集作業にのりだした。ここでは今後の編集作業に供するべく、首都圏（関東地域）における八重山に由来する郷友会の発足記録と活動の一部を覚書として提示しておく。

●東京竹富郷友会の前身(かりゆし会)

大正14（1925）年10月25日、現在の東京都中央区銀座1、2丁目産声を上げた。初代会長・崎山用枝氏。昼は、銀座で人力車を曳き、夜学で学んだ。郵政省の前身、逓信省や大蔵省に勤めた。崎山毅氏は医学師になり親島に戻り島民の医療に従事した。

●東京八重山郷友会

大正14(1925)年、初代会長・大浜信泉氏で発足。先人らは多摩川の土手に集まり、中秋の名月を眺めながら、《とうばら一ま》を唄い故郷を偲んだり、郷土が誇る偉大な作曲家・宮良長包氏の没後50年「生誕100年」に当たる「宮良長包の夕」コンサートを開催。さらに学業や集団就職で上京する後進のために、「奨学金制度」などを真剣に検討。森山長雄氏（大蔵省銀行局）や松田信徳氏（産婦人科医師）らが、個々の「奨学資金」を立ち上げ後進たちを支援した。

●東京与那国郷友会

昭和25(1950)年、初代会長・三城徳三氏で発足。1年間で職責を波平キク氏に代わる。与那国特有の郷土芸能「ミティ唄」「ティンバイ」などを継承し盛んであった。しかし会員の心ない行動で平成27(2015)年から8年間休会に追い込まれたが、令和5(2023)年、名称を「関東与那国郷友会」に変更し

東迎輝幸氏を初代会長に再スタートした。

●関東黒島郷友会

昭和37（1962）年、「ソテツの会」として発足した。初代会長・大田正男氏。郷土芸能の継承を柱にした活動を続けていたが、会員の心ない行動で裁判問題に発展。令和5（2023）年10月、62年の歴史に幕を降ろした。

●旧・大浜町郷友会

昭和43（1968）年発足。初代会長・仲本信吉氏。石垣八郎会長時代、昭和50（1975）年、字幕の「旧大浜町の文字」を抜き「東京大浜郷友会」に名称を代えたことから平得、宮良、白保が脱会し独自の会を立ち上げた。

同組織がスリム化した事で、決定事項も簡素化できることから山盛昇会長が「郷土を懐かしむだけの会では時代に乗り遅れる。会員に即役に立つ活動展開を…」と、値段も高価なパソコンを寄付。パソコンの出始めとあって、「箱根パソコン研修旅行」を行い、初めてパソコンの文字盤に触れた人は殆ど。いち早く文明の利器を使いこなし事務処理を簡素化した。

●東京西表郷友会

昭和47（1972）年、初代会長・野底広本氏。平得

泰次会長時代には、「西表島郷友会館建設」の大きなアドバルンを掲げ、若い会員に夢を託した。

しかし、時代の流れには勝てず積み立ってた会館建設資金は、西表島の小・中学校に（鳩間を含む8校）に寄贈した。

●東京白保郷友会

昭和51（1976）年発足。初代会長・川平五郎氏。2度の活動停止したが、新良文男、新良文二、西原勇各氏（個人）らが資金を出し合い活動再開。「獅子舞」を会のシンボルとして活発化、しかし大島隆元会長が急に他界したことで、「獅子頭にニンゲ（入魂）しないからだ」という会員がいて、信じた迎里学会長時代にニンゲ（祈願）し白保集落に保管している。総会には空輸してステージを盛り上げ今日に至る。

●東京波照間郷友会

昭和51（1976）年発足。初代会長・仲本トシ氏。教師と師弟の関係で活動も活発。「戦争マラリア朗読会」の主催や後援するなど、恒久平和を願う活動も続けた。

●関東宮良郷友会

昭和56（1981）年、初代会長・仲間清人氏で発足。時代の流れによって「シマクトゥバ」（方言）が失われると、危機感を抱き総会では、方言であいさつする決まりがあった。また、勉学に燃え上京する若者の「成人を祝う集い」や「生年祝い」を催すなど後継者育成に取り組み注目された。

●東京小浜郷友会

昭和58（1983）年発足。初代会長・黒島栄幸氏。5年ほど活動続けていたが会員が減少し自然消滅した。

●関東平真郷友会

平成元年（1989）年、初代会長・武内寅男氏で発足。郷土芸能継承を活動の柱に取り入れ「獅子舞」を会のシンボルに。習得した獅子舞を老人ホームなどを慰問して喜ばれた。

●東京しかあざ会

平成10（1998）年、初代会長・羽鳥秀男氏で発足。東京八重山郷友連合会発足の原動力になった。例会は、東京・千代田区神田の沖縄料理店「ゆずの木」（玉城幾枝経営者）が場所を提供。三線教室や郷土文化研究など活動の柱にした。

●関東伊原間郷友会

平成27（2015）年、初代会長・前田昇氏で発足。現在も活動している。

〔追記〕

平真郷友会は、連合会に代議員名を連れているが残念ながら殆ど活動していない。東京与那国、宮良、黒島、西表島が活動停止。東京与那国郷友会は、関東与那国郷友会に名称を代えて令和7（2025）年10月12日、第3回目の総会を開いた。

その他に尚志会（八重高）、みずほ会（農高）、友愛津梁会（八重商工高）の同窓会がある。

竹富町調査を終えて

斜里町立知床博物館 勝田 一 気

斜里町立知床博物館では、姉妹町である竹富町と友好都市の青森県弘前市を隔年で交互に調査することや人的交流を目的に現地調査を行っている。私は、過去に沖縄本島には一度訪れたことがあったが、八重山諸島を訪れるは初めての経験となった。知床博物館からは私を含め2人の学芸員が竹富町を訪れ、私は歴史や文化を中心に視察、調査を行った。約1週間の調査期間では竹富島、西表島、由布島、波照間島を訪れた。

今回の調査の中でも特に印象に残ったのが、国の重要無形民俗文化財に指定されている竹富島での種取祭の見学である。当初は奉納芸能が行われる2025年11月17、18日の2日間見学する予定だったが、悪天候により1日目だけの見学となった。奉納芸能は庭と舞台の両方を見て、夜には世乞いにも参加した。庭の芸能では演目を行う一人一人の動き揃っており感激した。また、舞台の奉納では、それぞれの演目のそれぞれの役を演じる人が、しっかりと役になりきり、細かい所作やセリフが演者に乗り移っているように見えた。奉納終了後に、玻座間民俗芸能保存会の方とお話する機会があり、本番の1か月前から練習してことを知り、その結果が庭や舞台で発揮されていることが分かった。また、奉納演目では子供たちが出てくる場面が多々あり、幼少期から「種取祭」という環境に身を置くことで様々な技術などが自然と身に付くことで素晴らしい奉納ができるのだと分かった。

波照間島では、波照間島出身の方に1日案内いただき、国史跡であるコート盛や下田原城跡をはじめ、島の様々な歴史の痕跡を見ることができた。特に、私が関心をもったのが道と井戸である。案内いただいている時に「ここは神様が通る道だよ」や「この道を通して昔は集落から海へ出たのだよ」と教えていただいた。それぞれの道に名前や役割があり、その道を集落人が管理していることを知り、北海道に住んでいる私にはそのような習慣がないこともあり、とても興味深かった。また、波照間島に限ったことではないが、川が無い島では、水を得るために井戸が重要視され、それらの井戸にも名前や役割があることが分かった。

今回の調査では竹富町の複数の島でも、限られた島しか見るができなかった。しかし、訪れた島間でも異なった言葉や習慣、環境があり、同じ島でさえも集落単位で違いがあることをよく理解することができた。

もし、次に竹富町を調査させていただく機会があれば、今回訪れることができなかつた島を調査したいと思う。また、「種取祭」だけでなく、西表島の「節祭」や小浜島の「結願祭」、波照間島の「ムシャーマ」などの祭礼行事についても触れたいと思う。



知床博物館竹富町資料調査報告

斜里町立知床博物館

樋口 真人

姉妹町友好都市交流の一環として、斜里町では隔年で竹富町での資料調査を行っている。今回は竹富町の関係機関へ挨拶に伺うとともに、種取祭を視察すること、竹富町の文化財を調査すること、当館に所蔵の少ない生物資料を採集することを主目的とした。八重山地域には11月13日から19日にかけて滞在し、前半は関係機関への挨拶回り、中盤は西表島内での野外調査、後半は種取祭の視察を中心に行った。

石灰岩が広く分布する南西諸島は陸生貝類の生息に適した地域となっており、西表島でも36種が報告されている（湊、1976）。斜里町で見られる種と比較する上でも西表島の陸貝を調べることは重要であり、このため採集調査を行うこととなった。調査は主に西表島の山中で行い、死貝を含めて複数種約40点の陸貝を採集した。今回採集したもののうち、生体時に鮮やかな緑色をしているアオミオカタニシ、大型で殻表に毛が生えているクロイワオオケマイマイは非常に特徴的な造形をしており、陸貝の多様性を説明する上で有用な標本である。

西表島では人の暮らしと関わる植物の調査も合わせて行った。特に、島こしょうやヒバーチと呼ばれるヒハツモドキは、果実を粉末にした調味料が飲食店の卓上に置かれたり、宿泊施設で提供される料理の香りづけに葉が使われたり、暮らしと密接に関わっている印象を受けた。この話を宿泊施設の方にしたところ、施設裏に生えている植物について色々と教えていただき、ご厚意により生垣のヒハツモドキも採取させていただいた。料理の香りづけとして出された葉も含め、これらは竹富町の植物文化を表すものとして大事に活用させていただく。

2025年11月17日から1泊2日で視察した種取祭では、玻座間の集落による庭と舞台の奉納芸能、そして夜の世乞いに至るまで、短い時間ではあったものの凝縮された内容を体感した。残念ながら島言葉はほとんど聴き取ることができなかったが、演者の表情や振り付け、声のトーンなど、竹富初心者の中でもボディランゲージで十分に楽しむことができた。この点が、今もなお種取祭が多くの人を惹きつける理由の一つとなっているのだろう。

今回の調査では概ね当初の目的を達成できたが、タイトなスケジュールであったため、羽を伸ばして過ごすことができなかった。次回、竹富町にお伺いする際には、自然や文化に触れながらゆったりとした時間を過ごしたい。



クロイワオオケマイマイ



ヒハツモドキ

2025 年度 竹富町史編集業務日誌抄

- 4/7 ・西前津松市氏の原稿「1965年の波照間島旧盆行事 ―ムシャーマを中心に― 写真展（撮影／アウエハント夫妻）」受理。『竹富町史だより』（第56号）に掲載。
- 4/16 ・「誘い 玉城流翔節弘子乃会 第5回平田弘子リサイタル」（飯田泰彦）が『八重山毎日新聞』に掲載。
- 5/2 ・「〔玉城流翔節弘子乃会 第5回平田弘子リサイタル〕を観て」（飯田泰彦）が『八重山毎日新聞』に掲載。
- 5/21 ・「波照間島民俗調査関連資料一式」の寄贈受入れ調整。調整監・宜間正八、社会文化課課長・西波照間優、飯田泰彦がアウエハント＝静子氏宅訪問。→5/22、県立図書館資料調査。
- 5/22 ・記事「『民俗調査資料』町に寄贈 60年前の波照間島 ―アウエハント静子さん、亡き夫と記録―」（『八重山毎日新聞』）掲載。
- 5/23 ・竹富町小学校5年生宿泊研修の平和集会にて、「忘勿石」を飯田泰彦解説（於・南風見田浜）。
- 6/8 ・花城正美氏の原稿「小浜島へのまなざし」〈1－4〉が『八重山毎日新聞』に連載（→6/11）。『竹富町史だより』（第56号）に掲載。
- 6/13 ・山城千秋氏（熊本大学）の原稿「竹富町の島々と地域史づくり」が『八重山毎日新聞』に掲載。『竹富町史だより』（第56号）に掲載。
- 6/15 ・竹富町球技大会（於・西表島東部）。根原裕美子補佐、米盛恭子がスタッフとして参加。
- 6/21 ・第4回竹富町シマムニ発表会（於・波照間島）。町史編集係はパンフレット制作。根原裕美子補佐、米盛恭子、大田将之がスタッフとして参加。
- 6/25 ・アウエハント＝静子氏の「1965年の旧盆行事―ムシャーマを中心に―」写真100枚、データ寄贈を受理。『竹富町史だより』（第56号）に掲載。
- 6/30 ・教育長・佐事安弘の原稿「大富集落開拓の歴史」受理。『竹富町史だより』（第56号）に掲載。
- 7/1 ・竹富島喜宝院蒐集館にて、神野善治氏（武蔵野美術大学名誉教授）、上勢頭美保氏の「竹富島の生活用具」（国登録文化財）調査に飯田泰彦同行。前本隆一氏より聞き書き。
- 7/5 ・第22回デンサ節大会。編集長・石垣久雄氏が奨励賞。根原裕美子補佐、米盛恭子、大田将之がスタッフとして参加。
- 7/9 ・狩俣恵一氏より、第49回竹富町史編集委員会の資料として、『郷友会編』（仮題）の「第2次目次案」を受理。
- 7/10 ・新本光孝氏より、第49回竹富町史編集委員会の資料として、『自然編』（仮題）の「目次案」を受理。
- 7/14 ・白保椋之氏の原稿「波照間島の人物、習俗に関する聞書」（仮題）を受理。『竹富町史だより』（第56号）に掲載。
- 7/23 ・沖縄県地域史協議会（於・与那原町）に米盛恭子出席。那覇市立歴史博物館視察。
・『沖縄県地域史協議会会誌』（第48号）に「竹富町」欄掲載。
- 7/30 ・アウエハント＝静子氏より写真展用「1965年の波照間島」（旧盆行事関連）えり抜き100枚のデータ寄贈を受ける。
- 8/1 ・得能壽美氏の書評「〈新刊紹介〉『竹富町史だより 合冊1』」が『八重山毎日新聞』に掲載。
- 8/9 ・白鷗大学・斎藤正憲ゼミナールの「竹富島フィールドワーク」に飯田が同行。石垣久雄氏の「軒下ゆんたく講座」、竹富島の文化財探訪。
- 8/12 ・白保椋之氏の原稿「波照間島近代郷土譚―ベスマ聞書き―」再提出。

- 8/15 ・《越城節》歌碑建立会議に根原裕美子補佐、飯田泰彦出席。
- 8/22 ・第49回竹富町史編集委員会開催（於・竹富町役場3階大会議室）。『西表島編』〈上巻〉、『竹富町史だより 合冊1』の発刊報告及び記者発表。
- 8/29 ・『竹富町史だより』〈第56号〉発行。
- ・ミニ写真展「アウエハント＝静子プレゼンツ 第1弾！ 1965年の波照間島―旧盆行事・ムシャーマを中心に―」開催。於・竹富町役場ロビー。
 - ・「誘い アウエハント＝静子プレゼンツ 第1弾！ 1965年の波照間島―旧盆行ヒ事・ムシャーマを中心に―」（西前津松市）が『八重山毎日新聞』に掲載。
 - ・「誘い アウエハント＝静子プレゼンツ 第1弾！ 1965年の波照間島―旧盆行事・ムシャーマを中心に―」（飯田泰彦）が『八重山日報』に掲載。
 - ・《越城節》歌碑建立に伴う動画撮影に同行（根原裕美子補佐、飯田泰彦）。
- 8/30 ・記事『『西表島編』を発刊／上巻、19年かけて／「竹富町史だより合冊1」が『八重山毎日新聞』に掲載。
- 9/2 ・記事「アウエハント写真展」『八重山毎日新聞』2025年9月2日掲載。
- 9/5 ・波照間島の旧盆行事・ムシャーマを飯田見学。国立劇場公演パンフレット執筆に伴う調査。
- 9/12 ・奄美沖縄民間文芸学会八重山大会（於・石垣市立図書館視聴覚室）で、飯田泰彦が「酒井卯作と八重山研究」を発表。学会会員を対象に『竹富町史だより』〈第56号〉を配布。
- 9/19 ・ショウエイ＝パワーズ氏より「アウエハント・静子 presentS 第2弾！ 「村の人々と暮らし」（写真データ）」を受理。
- 9/20 ・第27回竹富町古謡発表会（於・西表島祖納）に、西波照間優課長、古見文志課長補佐、根原裕美子課長補佐、飯田泰彦、米盛恭子がスタッフとして参加。
- 9/30 ・『竹富町史 第八巻 西表島』〈上巻〉の「売買契約」を、安川準也西表祖納集落支援員と締結。
- 10/1 ・上原美紀、町史編集係に配属。
- ・「令和7年度危機的な状況にある言語・方言サミット」において、地元紙「リレーエッセイ」に編集委員・係から、石垣久雄氏（「第46回テドゥンムニ大会」八重山毎日新聞10/8付）、花城正美氏（「昔話をスمامニで」八重山毎日新聞10/19付、「スمامニ継承の工夫」八重山日報10/11付）、上江洲儀正氏（『竹富方言辞典』の思い出」八重山日報10/26付）、那根真氏（「島をカタチツクルもの」八重山毎日新聞10/25付）、米盛恭子氏（『南風』を何と読む？」八重山日報10/15付）が参加。
- 10/7 ・波照間島にて国立劇場「波照間島の芸能」公演のリハーサル立ち会い（飯田泰彦）。
- ・アウエハント＝静子プレゼンツ第2弾！写真展「1965年の波照間島 村の人々と暮らし」（於・波照間保健センター）→10/30。
- 10/12 ・与那国島で開催の「西表―与那国民俗芸能・文化交流事業 結い風 ―響まし 吾島ぬ芸ぬ数々―」（竹富町生涯学習委託）に、古見文志課長補佐、根原裕美子課長補佐、米盛恭子が参加。
- 10/15 ・ポスター『竹富町の島じまのコトバ』をデザインワーク Yell（市瀬健治代表）に制作依頼（文化財係対応）。
- 10/18 ・沖縄国際大学後援会八重山支部総会にて、飯田泰彦が「八重山芸能の森への誘い」を講話。
- 10/25 ・「令和7年度危機的な状況にある言語・方言サミット八重山大会」にて、社会文化課によるブース出展。編集委員の石垣久雄氏（パネラー）、花城正美氏（ブースアピール）が出演（→10/26）。
- 11/1 ・国立劇場おきなわの『ステージガイド 11月号』に、「波照間島の芸能」（飯田泰彦）掲載。
- 11/3 ・編集委員・通事孝作氏が八重山毎日文化賞正賞受賞。

- 11/4 ・沖縄県地域史協議会（於・南風原）にて、米盛恭子「竹富町史編集事業、及び『竹富町史 第八巻 西表島』（上巻）、『竹富町史だより 合冊1』の発刊について」を公表。
- 11/13 ・勝田一気氏・樋口真人氏（斜里町立知床博物館学芸員）の竹富町資料調査に対応（→19）。
- 11/18 ・「令和7年度八重山地区市町教育委員会協議会研修会 in 竹富島」にて、飯田泰彦が「竹富町の文化と芸能」を講話。
- 11/23 ・「波照間島の芸能」国立劇場公演で、アウエハント静子 presents 第3弾！写真展「村の人々と暮らし」。飯田泰彦がステージガイド。
- 11/24 ・新里由華氏（読谷村）より「新川盛光氏関連資料一式」の寄贈を受ける（於 うるま市・安里家）。
- 11/25 ・Shoei=Powers 氏より「アウエハント静子氏講演会&寄贈資料展」（12/13開催）のパンフレット掲載の原稿受理。
- 12/1 ・佐事安弘教育長より「アウエハント静子氏講演会&寄贈資料展」（12/13開催）の誘い（案内文）、及びパンフレット掲載挨拶の原稿受理。
- 12/5 ・第50回竹富町史編集委員会（於・離島ターミナル会議室）。
- 12/9 ・アウエハント静子 presents 第4弾！写真展「村の人々と暮らし」（於・竹富庁舎ロビー）→12/12。
- 12/13 ・アウエハント=静子 presents 第5弾！「講演会&寄贈資料展」（→12/14）、及びパンフレット作成。
- 12/14 ・記事「昔の波照間島の様子を紹介／アウエハント・静子さんが講演」が『八重山毎日新聞』に掲載。
- 12/22 ・ポスター「竹富町の島じまのコトバ」デザインワーク Yell より納品。町内の保育所・幼稚園・小中学校・公民館に順次発送。
- 12/26 ・古谷野洋子『「神様から撮らされたものを、一時期お預かりして、お返します」—アウエハント・静子講演会&寄贈資料展に触れて—』（『八重山毎日新聞』）掲載。
- 1/1 ・『広報たけとみちょう』（No.511）に記事「アウエハント=静子氏講演会開催」掲載。
- 1/9 ・沖縄環太平洋国際映画祭（第2回 Cinema at Sea 巡回上映祭 in 竹富町）於・竹富島まちなみ館『パシフィック・マザー』上映。飯田泰彦、米盛恭子、上原美紀が参加。
- 1/10 ・沖縄環太平洋国際映画祭（第2回 Cinema at Sea 巡回上映祭 in 竹富町）於・波照間島集落センター『沖縄スパイ戦史』上映。西波照間優、米盛恭子、上原美紀が参加。
- 1/23 ・小浜島民俗資料館展示物移動に加勢（飯田泰彦・上原美紀）。
- 2/13 ・「第31回やまねこマラソン大会」（→15、準備・当日・後片付け）。
- 2/14 ・「誘い 黒島弘・野原政俊・大浜安則 沖縄県指定無形文化財八重山古典民謡保持者認定記念公演八重山の謡と踊り—肝合 絆 染みてい—」（飯田泰彦）が『八重山毎日新聞』に掲載。
- 2/17 ・平和祈念資料館「島々の戦争」見学。西波照間優、米盛恭子、上原美紀。飯田は19日に見学。
- 2/26 ・眞謝マリナ氏より原稿「与那国公演『緋い風』—響まし我島ぬ数々—報告書」受理
- 2/27 ・沖縄県立図書館「空飛ぶ図書館」 in 小浜島。古見文志、米盛恭子、飯田泰彦（→28日）。
- ・『竹富町史だより』（第57号）刊行。
- 3/7 ・竹富町史編集委員・三木健氏第53回伊波普猷賞受賞祝賀会 in 南の美ら花ホテルミヤヒラ。
- 3/11 ・「誘い 田場絹枝舞踊道場公演『第2回 萌る想い 踊るうむい』（飯田泰彦）が『八重山毎日新聞』に掲載。→3/14、パンフレットの「解説」を飯田執筆。
- 3/25 ・「与那国町史編纂に関する意見交換会」（於：与那国町）に米盛恭子がコメンテーターとして参加。（→26日与那国町出張）

第50回竹富町史編集委員会議事録

2025年12月5日午後2時～4時、離島ターミナル会議室で第50回竹富町史編集委員会が開催された。出席者は、石垣久雄氏、里井洋一氏、新本光孝氏、池田克史氏、上江洲義正氏、大浜修氏、狩俣恵一氏、通事孝作氏、花城正美氏、吉川英治氏の10名、竹富町議会が12月5日より開催されるので、当局からは町史編集係から3名、飯田泰彦、米盛恭子、上原美紀が出席した。欠席者は西表隆夫氏、大城肇氏、島村賢正氏、那根真氏（各氏欠席届有）。

最初に石垣久雄編集委員長があいさつを行ない、八重山毎日文化賞正賞を受賞した通事氏の努力と情熱を称えた。委員長の挨拶を受け、通事耕作氏よりお礼の言葉があった。

2025年度の経過報告を事務局（町史編集係）が行なった。本年度はイベントや寄贈資料が多かったことを述べ、各専門部会の開催ができなかったことを反省点に挙げた。

第50回竹富町史編集委員会の議題は次のとおり。

1. 『竹富町史 第八巻 西表島編』〈下巻〉の進捗状況
2. 『竹富町史 第四巻 黒島編』進捗状況
3. 『自然編 ビジュアル版』の進捗状況
4. 『郷友会編』について
5. その他
 - (1) 「発刊計画」について
 - (2) 寄贈について
 - (3) 令和7年度町史写真デジタル化報告
 - (4) その他

議題1、2については、事務局が報告を行なった。

1、『竹富町史 第八巻 西表島編』〈下巻〉の進捗状況（事務局報告）

事務局から〈上巻〉の編集作業、刊行、刊行後の経過を述べ、〈下巻〉の進捗表を提示して進捗を確認した。〈上巻〉について、売れ行き好調の要因として、沖縄県地域史協議会での報告（米盛恭子発表）や、マスコミ報道、売買契約の反響などが挙げられた。

2、『竹富町史 第四巻 黒島編』の進捗状況（部会長・那根真〈事務局代読〉）

進捗状況について、第3章「歴史」の「戦後のあゆみ」がまとまっていない。黒島の戦後史は、通事孝作氏の既出原稿を中心に構成することになった。その際、坂座真武・通事孝作両氏の作成した年表に、近年の新聞資料の見出しを加えた年表を改めて作成して共有している。これをもとにして関係者などに取材したものを原稿化することになった。近年（2024年、2025年）の事例については、主として『八重山毎日新聞』の記事見出しを年表に記入している。現代の記述にも力を入れるべく、2024年より黒島に関する記事をスクラップすることを始めた。すべて網羅したわけではないが、編集委員会では、収集した2024年、2025年の記事を提示した。

當山善堂氏の逝去に伴い、専門部会の強化が課題として挙げられた。當山氏の提出原稿については、引用箇所を確認し、注記を施す作業を進めている。第8章第2節「黒島のことわざ」は、未完成原稿（ア行、諺／カタカナ表記）を受理しているが、『黒島辞典』収録のものを完全原稿とみなし、それを事務局、専門部会で語源や意味が明らかな語について、漢字を当てカタカナでルビを振ることにした。

3、『自然編 ビジュアル版』の進捗状況（部会長・新本光孝 報告）

自然編専門部会長・新本光孝氏より「章立て第12次案」が提示された。

新本光孝氏が収集した資料のファイルを回覧し、それをもとに資料の解説と掲載候補となる写真の説明が行なわれた。その後、質疑応答が行われた。

4、「郷友会編」について（部会長・狩俣恵一 報告）

狩俣恵一部会長から、「郷友会編」の章立てについて、丁寧な説明があった。

また、「在沖八重山郷友会連合会組織図」、「くやーならー沖縄竹富郷友会だより」〈第9号〉を提示し、現在の竹富町に関する郷友会活動を概観しながら、竹富島の郷友会について具体的な事例報告があった。そのなかで郷友会活動の衰微に触れたが、その大きな要因として、人口の激減、情報網・交通網を中心とした暮らしの発展などを挙げた。その他、2026年度の郷友会調査計画が提示され、承認された。そして「さまざまな問題を念頭に置いて取り組みたい」と結んだ。

5、その他

(1)「発刊計画」について（事務局報告）

『西表島編』〈上巻〉の編集作業について、提出原稿を受理したものの、完全な原稿は少なく、なかには20回を超す校正を重ねた原稿も複数あったことから、事務局は作業に疲弊していった。今後の予算編成は、提出原稿が整い次第、「印刷製本費」（版下製作費、印刷製本費）、「報酬」（原稿料）を計上するように、当局から指導を受けている。

2026年度は『竹富町史だより 合冊2』、2027年度は『竹富町史だより 合冊3』の刊行計画を掲げた。同時に、『西表島編』〈下巻〉、『新聞集成10』、『自然編』『郷友会編』の編集作業を進める計画を報告した。前述のとおり、『黒島編』『西表島編』〈下巻〉については、原稿提出が整い次第、次年度に予算を計上することになった。

また、『新聞集成』は今後、1972年まで単年ごとに編集することになっており、このシリーズはあと6冊を刊行する計画である。

(2) 寄贈について（事務局報告）

竹富町史編集係では、八重山・竹富町に関する資料を、重点的・網羅的に収集して、地域文化の多様な情報提供のため、充実した資料群の構築に向けて日夜努めている。

とはいえ、系の蔵書・収蔵資料の多くは、寄贈により支えられて成り立っているといっても過言ではない。これらは寄贈を受理次第に目録化して『竹富町史だより』で報告することによって、寄贈者に感謝の意を

表している。今後はそれだけでなく、感謝状を授与していきたい。今後の課題として収蔵場所を確保することなどが挙げられた。

近年の寄贈を次に挙げることにする。

- ①「竹富島 本土復帰の日」(写真家・倉橋正氏より写真350枚)
- ②「西表開発に関する収集資料」(沖縄社会経済学者・川平成雄氏より西表開発関連記事のスクラップ)
- ③「1970年代八重山における民俗調査音源資料」(民俗学者・宮良高弘氏の御遺族よりカセットテープ51点)
- ④「鹿川村調査報告書」(船浮小中学校から「鹿川村方位石の拓本」他)
- ⑤「黒島方言調査音源資料」(登野城ルリ子より「黒島方言調査」カセットテープ)
→言語学研究者・占部由子(神戸外国語大学講師)が報告書作成予定。
- ⑥「玉代勢泰興収集資料一式」(玉代勢家)
- ⑦山里節子氏より写真。データ受理。
- ⑧安間繁樹氏より写真。データ受理。
- ⑨「崎原恒新八重山関係ノート一式」(崎原恒新氏より22冊受理)
- ⑩「新川盛光氏収集資料一式」。新里由華氏より新川盛光氏(下地島出身)の経歴に関わる資料、祭祀に関わる資料など、寄贈いただいた。これらの扱いはひとまず新城島専門部会に委任することになった。
- ⑪「コルネリウス＝アウエハント波照間島調査資料一式」。アウエハント静子氏より写真、地図、メモ帳など寄贈。今後、五月雨方式で受けつけることになっている。2025年度には5回の写真展を開催した。

以上を分類すると、「収集資料一式」は、寄贈者が生涯にわたって収集した資料のまとまりをいう。これらは一般の刊行物と異なり、かえがたい貴重なものである。(⑥⑨⑩⑪)

写真は近現代史において重要な資料となる。竹富町史編集においても、大いに活用するため、現在取り組んでいるアーカイブ事業を推進していきたい。(①⑦⑧)

研究調査資料として、②③④⑤⑨⑩がある。

(3) 令和7年度町史写真デジタル化報告(事務局報告)

【事業名】令和7年度沖縄振興特別推進市町村交付金事業

- ①竹富町文化振興・観光交流拠点整備事業。(文化財係) 今後、小浜島・鳩間島を予定。
「わらべ歌等記録調査」竹富島における「わらべ歌等記録調査」および祭祀記録のデジタル化。
- ②ビデオテープ等アナログ資料のデジタル化。(文化財係)
- ③竹富町史保管写真デジタル化委託業務。(町史編集係)

【業務内容】

- 町史編集係では約35,000枚の写真資料を保有している。しかし、紙の写真資料は経年劣化の可能性が高く、早急なデジタル化が必要であることから、一昨年に続き昨年度までで、約20,000枚の写真デジタル化の委託業務を実施した。
- 一昨年度、保存状態の悪い資料や活用頻度の高い資料(西表島編、黒島編への活用)のデジタル化、昨年度は新城島の写真や、文化財関係写真及び未分類の写真について新たにデジタル化することができた。
- 今年度は、黒島出身の玉代勢泰起氏から寄贈を受けた資料から684枚の写真をはじめ、寄贈資料を中心にデジタル化を進めている。

〈令和7年度デジタル化資料〉

玉代勢泰起氏資料（写真）	684枚	黒島出身
東京竹富郷友会写真等資料	145枚	郷友会関連
町史・文化財関係写真	240枚	
瀬戸弘町長写真	547枚	元町長
新川盛光氏関連資料（写真）	459枚	下地島出身
町広報写真①	1,736枚	
町広報写真②	1,358枚	
町広報写真③	1,767枚	
文化財関係調査写真	3,064枚	
	10,000枚	

【今後の課題】

- データ化済の資料について基本データ（撮影した場所や時間、内容など）の解析及び整備を行う。
- デジタル化した写真を、竹富町のホームページでの公開に向けて準備する。
- 国や大学等のプラットフォームにおいて公開することで本町を広くPRする。

〈令和6年度デジタル化枚数〉

新城島	520枚	17冊	
調査アルバム	1,760枚	44冊	40枚／冊
文化財アルバム	2,700枚	5冊	540枚／冊
未分類写真	5,020枚		
	10,000枚		
西表島（東部・西部）	5,768枚	159冊	
波照間島	3,059枚	73冊	
調査アルバム	467枚		
仲間橋開通式	84枚		
スライド箱	143枚		
126mmフィルム	45枚		
個別スライド	156枚		
その他	278枚		
	10,000枚		

竹富町史編集委員会及び竹富町史編集室・竹富町史編集係の変遷

◇『竹富町誌』（1974年）、『町制三十年のあゆみ』（1978年）の編集発刊の成果を踏まえ、竹富町制施行40周年記念文化事業の一環として、1988年（昭和63）に竹富町史編集事業の取り組みが開始された。

- ◆1989. 2. 2 竹富町史編集委員（19人）に委嘱状交付
- ◆1990. 3. 24 竹富町史編集室設置
- ◆2006. 4. 1 組織改革により総務課に統合、竹富町総務課町史編集係となる
- ◆2008. 4 組織改革により竹富町教育委員会総務課の管轄となり、竹富町教育委員会総務課町史編集係となる。
- ◆2017. 4 組織改革により竹富町教育委員会社会文化課の管轄となり、竹富町教育委員会社会文化課町史編集係となる。

（通事孝作「竹富町史編集事業の歩み」『竹富町史だより』〈合冊1〉615～641頁参照）

竹富町史編集委員歴代名簿 1989年〈H1〉～2025〈R7〉

- ・凡例：◎委員長 ○副委員長 ☆新任
- ・『竹富町史だより』、『竹富町教育委員委嘱に関する綴り』を参考にまとめた。
- ・肩書は当時のもの。

1989年(H1)	19人	1991年(H3)	19人	
1989. 2. 2～		1991～1993		
◎當山 哲男 元竹富町企画課長	○西里 喜行 琉球大学教育学部	◎當山 哲男 元竹富町企画課長	○西里 喜行 琉球大学教育学部	町史編集調査協力委員
加治工真市 沖縄県立芸術大学	大城 学 沖縄県立博物館	加治工真市 沖縄県立芸術大学	大城 学 沖縄県立博物館	1991. 1. 14委嘱
篠原 武夫 琉球大学農学部	西島 信昇 琉球大学理学部	篠原 武夫 琉球大学農学部	西島 信昇 琉球大学理学部	上勢頭芳徳（竹富）
池城 安伸 石垣第二中学校	黒島 精耕 伊原間中学校	池城 安伸 石垣第二中学校	黒島 精耕 伊原間中学校	松竹秀文（黒島）
三木 健 琉球新報編集局	玉城 功一 八重山商工高等学校	三木 健 琉球新報編集局	玉城 功一 八重山商工高等学校	前泊竹宏（小浜）
石垣 久雄 八重山高等学校	新本 光孝 琉球大学農学部	石垣 久雄 八重山高等学校	新本 光孝 琉球大学農学部	安里真吉（新城）
山盛 直 琉球大学農学部	石島 英 琉球大学（短大）	山盛 直 琉球大学農学部	石島 英 琉球大学短期大学	大舛久信（大原）
本成 善康 元教育事務所長	阿佐伊孫良 東京中央郵便局	本成 善康 元教育事務所	阿佐伊孫良 東京中央郵便局	玉盛淳則（豊原）
上江洲儀正 南山舎	登野原 武 竹富町教育委員会	上江洲儀正 南山舎	登野原 武 竹富町教育委員会	大谷用次（大富）
安里 碩八 竹富町役場		安里 碩八 竹富町役場		新 初蔵（古見）
				富本 勇（美原）
				銘里長善（上原）
				前大用祐（西表）
				西 永祐（白浜）
				井上文吉（舟浮）
				通事建次（鳩間）
				新城永佑（波照間）

1993年(H15)	16人	1995年(H17)	16人	1997年(H19)	16人～20人
1993～1995		1995～1997		1997. 2. 1～1999. 1. 31	
◎當山 哲男 元竹富町企画課長		◎當山 哲男 元竹富町企画課長		◎本成 善康 元八重山教育事務所	
○西里 喜行 琉球大学教育学部		○西里 喜行 琉球大学教育学部		○西里 喜行 琉球大学教授	
加治工真市 沖繩県立芸術大学		加治工真市 沖繩県立芸術大学		當山 哲男 元竹富町企画課長	
大城 学 沖繩県立博物館		大城 学 沖繩県教育庁文化課		加治工真市 県立芸術大学教授	
西島 信昇 琉球大学理学部		西島 信昇 琉球大学名誉教授		西島 信昇 琉球大学名誉教授	
黒島 精耕 明石小学校		黒島 精耕 明石小学校		黒島 精耕 石垣中学校校長	
三木 健 琉球新報編集局		三木 健 琉球新報編集局		三木 健 琉球新報編集局長	
玉城 功一 八重山商工高等学校		玉城 功一 八重山商工高校		玉城 功一 八重山商工高校教諭	
石垣 久雄 八重山高等学校		石垣 久雄 泊高校(通信制課程)		石垣 久雄 泊高校校長	
新本 光孝 琉球大学農学部		新本 光孝 琉球大学農学部		新本 光孝 琉球大学教授	
山盛 直 琉球大学農学部		山盛 直 琉球大学農学部		山盛 直 琉球大学教授	
本成 善康 元教育事務所長		本成 善康 元教育事務所長		阿佐伊孫良 銀座郵便局職員	
阿佐伊孫良 東京中央郵便局		阿佐伊孫良 銀座郵便局		上江洲儀正 南山舎代表	
上江洲儀正 南山舎代表		上江洲儀正 南山舎代表		登野原 武 竹富町教育長	
登野原 武 竹富町教育委員会		登野原 武 竹富町教育委員会		安里 碩八 竹富町史編集室室長	
安里 碩八 竹富町役場		安里 碩八 竹富町役場		☆小濱光次郎 前泊高校校長	
				☆大仲 康文 補充1998. 2. 1～	
				☆池城 安伸 補充1998. 2. 1～	
				☆石垣 金星 補充1998. 2. 1～	
				☆里井 洋一 補充1998. 2. 1～	

1999年(H11)	20人	2001年(H13)	18人	2003年(H15)	18人
1999. 2. 1～2001. 1. 31		2001. 2. 1～2003. 1. 31		2003. 2. 1～2015. 3. 31	
◎本成 善康 元八重山教育事務所長		◎本成 善康 元八重山教育事務所長		◎本成 善康 元八重山教育事務所長	
○西里 喜行 琉球大学教授		○西里 喜行 琉球大学教授		○西里 喜行 琉球大学教授	
加治工真市 県立芸術大学教授		加治工真市 県立芸術大学教授		加治工真市 県立芸術大学教授	
小濱光次郎 元泊高校校長		小濱光次郎 元泊高校校長		黒島 精耕 竹富町教育長	
西島 信昇 琉球大学名誉教授		黒島 精耕 元石垣中学校校長		三木 健 琉球新報専務	
黒島 精耕 前石垣中学校校長		三木 健 琉球新報常務取締役		玉城 功一 元八重山商工高校教諭	
三木 健 琉球新報常務取締役		玉城 功一 元八重山商工高校教諭		石垣 久雄 元八重山高校校長	
玉城 功一 前八重山商工高校教諭		石垣 久雄 元八重山高校校長		當山 善堂 県漁業信用基金協会	
石垣 久雄 八重山高校校長		當山 善堂 県漁業信用基金協会理事長		新本 光孝 琉球大学教授	
新本 光孝 琉球大学教授		新本 光孝 琉球大学教授		阿佐伊孫良 竹富公民館長	
山盛 直 琉球大学名誉教授		山盛 直 琉球大学名誉教授		上江洲儀正 南山舎代表	
阿佐伊孫良 沖繩ツーリスト石垣支店長		阿佐伊孫良 竹富公民館長		登野原 武 元竹富町教育長	
上江洲儀正 南山舎代表		上江洲儀正 南山舎代表		里井 洋一 琉球大学助教授	
登野原 武 前竹富町教育長		登野原 武 元竹富町教育長		池城 安伸 元登野城小学校校長	
里井 洋一 琉球大学助教授		里井 洋一 琉球大学助教授		篠原 武夫 琉球大学教授	
池城 安伸 前登野城小学校校長		池城 安伸 元登野城小学校校長		☆吉川 安一 元県立図書館長	
石垣 金星 元竹富町教育委員		石垣 金星 西表をほりおこす会会長		☆本田 昭正 元那覇高校教諭	
大仲 康文 竹富町教育長		安里 碩八 竹富町史編集室室長		☆玻座真 武 元白保中学校教諭	
安里 碩八 竹富町史編集室長					
☆當山 善堂 県企画開発部参事監					

2005年(H17)	18人	2007年(H19)	15人	2009年(H15)	17人
2005. 2. 1～2007. 1. 31		2007. 2. 1～2009. 1. 31		2009. 2. 1～2011. 1. 31	
◎登野原 武 元竹富町教育長 ○西里 喜行 琉球大学教授 加治工真市 県立芸術大学教授 黒島 精耕 竹富町教育委員会教育長 三木 健 琉球新報社副社長 玉城 功一 元八重山商工高校教諭 石垣 久雄 石垣市文化協会事務局長 當山 善堂 元八重山支庁長 新本 光孝 琉球大学農学部教授 阿佐伊孫良 NPOたきどろん事務局長 上江洲儀正 南山舎代表 里井 洋一 琉球大学教育学部教授 石垣 金星 西表をほりおこす会会長 吉川 安一 名桜大学国際学部教授 本田 昭正 元那覇高校教諭 篠原 武夫 琉球大学農学部教授 玻座真 武 元白保中学校教諭 ☆本原 孫宗 元石垣市消防長	◎登野原 武 元竹富町教育委員会教育長 ○西里 喜行 琉球大学名誉教授 黒島 精耕 前竹富町教育委員会教育長 三木 健 前琉球新報社副社長 玉城 功一 元八重山商工高校教諭 石垣 久雄 元八重山高校校長 當山 善堂 元八重山支庁長 新本 光孝 琉球大学教授 阿佐伊孫良 NPOたきどろん事務局長 上江洲儀正 南山舎代表 里井 洋一 琉球大学教育学部教授 石垣 金星 西表をほりおこす会会長 吉川 安一 名桜大学国際学部教授 本田 昭正 元那覇高校教諭 玻座真 武 元白保中学校教諭 三木 健 元琉球新報社副社長 吉川 安一 名桜大学国際学部教授	◎登野原 武 元竹富町教育委員会教育長 ○西里 喜行 琉球大学名誉教授 阿佐伊孫良 NPOたきどろん事務局長 新本 光孝 琉球大学名誉教授 石垣 金星 西表をほりおこす会会長 石垣 久雄 石垣市文化協会副会長 上江洲儀正 嶺南山舎代表取締役社長 ☆大城 肇 琉球大学副学長 黒島 精耕 元竹富町教育委員会教育長 里井 洋一 琉球大学教育学部教授 玉城 功一 元八重山商工高校教諭 當山 善堂 元八重山支庁長 玻座真 武 元白保中学校教諭 ☆花井 正光 琉球大学教授 本田 昭正 元那覇高校教諭			

2011年(H23)	17人	2013年(H25)	18人	2015年(H27)	18人
2011. 2. 1～2013. 1. 31		2013. 2. 1～2015. 1. 31		2015. 2. 1～2017. 3. 31	
◎登野原 武 元竹富町教育委員会教育長 ○西里 喜行 琉球大学名誉教授 阿佐伊孫良 竹富町老人クラブ連合会会長 新本 光孝 琉球大学名誉教授 石垣 金星 西表をほりおこす会会長 石垣 久雄 石垣市文化協会副会長 上江洲儀正 嶺南山舎代表取締役社長 大城 肇 琉球大学副学長 黒島 精耕 元竹富町教育委員会教育長 里井 洋一 琉球大学教育学部教授 玉城 功一 元八重山商工高校教諭 當山 善堂 元八重山支庁長 玻座真 武 元白保中学校教諭 花井 正光 琉球大学教授 本田 昭正 元那覇高校教諭 三木 健 元琉球新報社副社長 吉川 安一 名桜大学国際学部教授	◎登野原 武 元竹富町教育委員会教育長 ～2013. 3. 31 ○西里 喜行 琉球大学名誉教授 阿佐伊孫良 竹富町老人クラブ連合会会長 ～2014. 9 ☆安里 精善 南城市文化協会会長 新本 光孝 琉球大学名誉教授 石垣 金星 西表をほりおこす会会長 石垣 久雄 石垣市文化協会副会長 2013. 4. 1～(委員長) 上江洲儀正 嶺南山舎代表取締役社長 大城 肇 琉球大学副学長 黒島 精耕 元竹富町教育委員会教育長 里井 洋一 琉球大学教育学部教授 玉城 功一 元八重山商工高校教諭 玻座真 武 元白保中学校教諭 ☆鳩間 真英 元黒島小中学校校長 花井 正光 琉球大学教授 本田 昭正 元那覇高校教諭 三木 健 元琉球新報社副社長 吉川 安一 名桜大学国際学部教授	◎石垣 久雄 石垣市文化協会会長 ○里井 洋一 琉球大学教授 新本 光孝 琉球大学名誉教授 石垣 金星 西表をほりおこす会会長 上江洲儀正 南山舎株式会社代表取締役社長 ☆大浜 修 新城民俗芸能保存会会長 黒島 精耕 元竹富町教育委員会教育長 玉城 功一 元八重山商工高校教諭 ☆通事 孝作 元竹富町史編集係係長 西里 喜行 琉球大学名誉教授 玻座真 武 黒島伝統民俗芸能保存会会長 花井 正光 琉球大学教授 本田 昭正 元那覇高校教諭 吉川 安一 公立学校法人名桜大学名誉教授 大城 肇 琉球大学副学長 ☆狩俣 恵一 沖縄国際大学副学長 補充2015. 9 鳩間 真英 元黒島小中学校校長 三木 健 前琉球新報社副社長			

2016年(H28)	18人	2017年(H29)	19人	2019年(H31)	17人
2016. 12. 2～2018. 12. 1		2017. 2. 1～2018. 12. 1		2019. 1. 4～2021. 12. 28	
◎石垣 久雄 石垣市文化協会会長		◎石垣 久雄 石垣市文化協会会長		◎石垣 久雄 石垣市文化協会会長	
○里井 洋一 琉球大学教授		○里井 洋一 琉球大学教授		○里井 洋一 琉球大学教授	
新本 光孝 琉球大学名誉教授		新本 光孝 琉球大学名誉教授		新本 光孝 琉球大学名誉教授	
石垣 金星 西表をほりおこす会会長		石垣 金星 西表をほりおこす会会長		石垣 金星 西表をほりおこす会会長	
上江洲儀正 南山舎株式会社代表取締役社長		西表 隆夫 元黒島郷友会会長		西表 隆夫 前石垣黒島郷友会会長	
大浜 修 新城民俗芸能保存会会長		上江洲儀正 南山舎株式会社代表取締役社長		上江洲儀正 南山舎株式会社代表取締役社長	
黒島 精耕 元竹富町教育委員会教育長		大城 肇 琉球大学学長		大城 肇 琉球大学学長	
玉城 功一 元八重山商工高校教諭		大浜 修 新城民俗芸能保存会会長		大浜 修 新城民俗芸能保存会会長	
通事 孝作 元竹富町史編集係係長		黒島 精耕 元竹富町教育委員会教育長		狩俣 恵一 沖縄国際大学特任教授	
西里 喜行 琉球大学名誉教授		～2018. 5. 31		☆島村 賢正 元高等学校校長	
☆西表 隆夫 元黒島郷友会会長		玉城 功一 元八重山商工高校教諭		通事 孝作 元竹富町史編集係係長	
花井 正光 琉球大学教授		通事 孝作 元竹富町史編集係係長		西里 喜行 琉球大学名誉教授	
本田 昭正 元那覇高校教諭		西里 喜行 琉球大学名誉教授		鳩間 真英 元黒島小中学校校長	
吉川 安一 公立学校法人名桜大学名誉教授		鳩間 真英 元黒島小中学校校長		花井 正光 元琉球大学教授	
大城 肇 琉球大学副学長		花井 正光 元琉球大学教授		花城 正美 小浜公民館長	
狩俣 恵一 沖縄国際大学特任教授		本田 昭正 元那覇高校教諭		三木 健 前琉球新報社副社長	
鳩間 真英 元黒島小中学校校長		三木 健 前琉球新報社副社長		吉川 安一 公立学校法人名桜大学名誉教授	
三木 健 前琉球新報社副社長		吉川 安一 公立学校法人名桜大学名誉教授			
		狩俣 恵一 沖縄国際大学特任教授			
		☆花城 正美 補充2018. 7. 13～			

2022年(R 4)	17人	2024年(R 6)	15人	島じま編』 各専門部会員
2022. 1. 4～2023. 12. 28(2024. 3. 31)		2024. 4. 1～2026. 3. 31		※各巻奥付より
◎石垣 久雄 石垣市文化協会元会長		◎石垣 久雄 石垣市文化協会元会長		第二巻 竹富島編 2011年(H23) 発刊
○里井 洋一 琉球大学名誉教授		○里井 洋一 沖縄県立博物館・美術館館長		石垣久雄・西里喜行・阿佐伊孫良
新本 光孝 琉球大学名誉教授		新本 光孝 琉球大学名誉教授		狩俣恵一
☆池田 克史 船浮公民館長		池田 克史 観光業		第三巻 小浜島編 2011年(H23) 発刊
石垣 金星 西表をほりおこす会会長		西表 隆夫 前石垣在黒島郷友会会長		新本光孝・黒島精耕・慶田城久
(2022. 6. 30逝去)		上江洲儀正 南山舎代表取締役社長		花城正美
西表 隆夫 前石垣在黒島郷友会会長		大城 肇 元琉球大学学長		第四巻 黒島編 未完
上江洲儀正 南山舎代表取締役社長		大浜 修 新城民俗芸能保存会会長		那根真・西表隆夫
大城 肇 元琉球大学学長		狩俣 恵一 沖縄国際大学名誉教授		第五巻 新城島編 2013年(H25) 発刊
大浜 修 新城民俗芸能保存会会長		島村 賢正 元高等学校校長		登野原武・上江洲義正・安里精善
狩俣 恵一 沖縄国際大学名誉教授		通事 孝作 元竹富町史編集係係長		野底宗吉・安里碩八・安里功
島村 賢正 元高等学校校長		那根 真 畜産業		第六巻 鳩間島編 2015年(H27) 発刊
通事 孝作 元竹富町史編集係係長		花城 正美 元小中学校校長		吉川安一・加治工真一・島袋憲一
西里 喜行 琉球大学名誉教授		三木 健 ジャーナリスト		吉川英治・大城 肇
(2024. 2. 2逝去)		吉川 英治 元八重山高等学校校長		第七巻 波照間島編 2018年(H30) 発刊
花城 正美 元小中学校校長				玉城功一・大泊孝・島村賢正
三木 健 前琉球新報副社長				通事孝作・仲底善章・西前津松市
☆吉川英治 元八重山高等学校校長				東迎一博・本田昭正
☆那根 真 補充2023. 2. 1～				第八巻 西表島編
				(上巻) 2025年(R 7) 発刊
				里井洋一・池田克史・大浜修
				波照間永吉・花井正光・三木健

委員氏名	任 期	委任期間中の主な肩書
阿佐伊 孫 良	1989. 2. 2～2014. 9	東京中央郵便局／銀座郵便局職員／沖縄ツアーリスト石垣支店長／竹富公民館長／NPO たきどろん事務局長／竹富町老人クラブ連合会会長
安 里 精 善	2013. 2. 1～2015. 1. 31	南城市文化協会会長
安 里 碩 八	1989. 2. 2～2003. 1. 31	竹富町役場／竹富町史編集室室長
新 本 光 孝	1989. 2. 2～	琉球大学農学部
池 城 安 伸	1989. 2. 2～1993 補充1998. 2. 1～2005. 1. 3	石垣第二中学校 元登野城小学校校長
池 田 克 史	2022. 1. 4～	船浮公民館長／観光業
石 垣 金 星	補充1998. 2. 1～2003. 1. 31 2005. 2. 1～2022. 6. 30 (逝去)	元竹富町教育委員 西表をほりおこす会会長
石 垣 久 雄	1989. 2. 2～	八重山高等学校／泊高校 (通信制課程) ／泊高校校長／八重山高校校長／元八重山高校校長／石垣市文化協会事務局長／石垣市文化協会副会長／石垣市文化協会会長／石垣市文化協会元会長
石 島 英	1989. 2. 2～1993	琉球大学短期大学
西 表 隆 夫	2016. 12. 2～2026. 3. 31	元黒島郷友会会長
上江洲 儀 正	1989. 2. 2～	南山舎代表取締役社長
大 城 肇	2009. 2. 1～	琉球大学副学長／琉球大学学長／琉球大学元学長／沖縄県副知事
大 城 學	1989. 2. 2～1997	沖縄県立博物館／沖縄県教育庁文化課
大 仲 康 文	補充1998. 2. 1～2001. 1. 31	竹富町教育長
大 浜 修	2015. 2. 1～	新城民俗芸能保存会会長
加治工 真 市	1989. 2. 2～2007. 1. 31	沖縄県立芸術大学教授
狩 俣 恵 一	補充2015. 9～	沖縄国際大学副学長／沖縄国際大学特任教授／沖縄国際大学名誉教授
黒 島 精 耕	1989. 2. 2～2018. 5. 31	伊原間中学校／石垣中学校校長／竹富町教育長／元竹富町教育長
小 濱 光次郎	1997. 2. 1～2003. 1. 31	元泊高校校長
里 井 洋 一	補充1998. 2. 1～	琉球大学助教授／琉球大学教育学部教授／琉球大学教授／琉球大学名誉教授／沖縄県立博物館・美術館館長
篠 原 武 夫	1989. 2. 2～2007. 1. 31	琉球大学農学部教授
島 村 賢 正	2019. 1. 4～	元高等学校校長
玉 城 功 一	1989. 2. 2～2018. 12. 1	八重山商工高等学校教諭／元八重山商工高等学校教諭
通 事 孝 作	2015. 2. 1～	元竹富町史編集係係長
當 山 哲 男	1989. 2. 2～1999. 1. 31	元竹富町企画課長
當 山 善 堂	1999. 2. 1～2013. 3. 31	県企画開発部参事監／県漁業信用基金協会理事長／元八重山支庁長
登野原 武	1989. 2. 2～2013. 3. 31	竹富町教育委員会／竹富町教育委員会元教育長
那 根 真	補充2023. 2. 1～	畜産業
西 里 喜 行	1989. 2. 2～2024. 2. 2 (逝去)	琉球大学教育学部／琉球大学名誉教授
西 島 信 昇	1989. 2. 2～2001. 1. 31	琉球大学理学部教授／琉球大学名誉教授
玻座真 武	2003. 2. 1～2017. 1. 31	元白保中学校教諭／黒島伝統民俗芸能保存会会長
鳩 間 真 英	2013. 2. 1～2021. 12. 28	元黒島小中学校校長
花 井 正 光	2009. 2. 1～2021. 12. 28	琉球大学教授／元琉球大学教授
花 城 正 美	補充2018. 7. 13～	小浜公民館長／元小中学校校長
本 田 昭 正	2003. 2. 1～2018. 12. 1	元那覇高校教諭
三 木 健	1989. 2. 2～2026. 3. 31	琉球新報編集局／琉球新報専務／琉球新報常務取締役／元琉球新報副社長／ジャーナリスト
本 成 善 康	1989. 2. 2～2005. 1. 31	元八重山教育事務所長
本 原 孫 宗	2005. 2. 1～2007. 1. 31	元石垣市消防長
山 盛 直	1989. 2. 2～2003. 1. 31	琉球大学農学部／琉球大学教授／琉球大学名誉教授
吉 川 英 治	2022. 1. 4～2026. 3. 31	元八重山高等学校校長
吉 川 安 一	2003. 2. 1～2021. 12. 28	元県立図書館長／名桜大学国際学部教授／名桜大学名誉教授

歴代職員、嘱託員、臨時職員、会計年度任用職員

■室長

安里 碩 八	1990. 5. 21 ~2002. 3. 31
銘里 君 夫	2002. 5. 1 ~2003. 4. 30
古 堅 廉太郎	2003. 05. 01~2005. 03. 31
玉代勢 泰 寛	2005. 4. 1 ~2006. 3. 31

■主査

生 盛 大 和	1993. 5. 1~1996. 4. 30
米 盛 恭 子	2020. 4. 1~2026. 3. 31

■主事

新 盛 勝 一	1991. 4. 1~1993. 4. 30
通 事 孝 作	1996. 5. 1~2004. 6. 30
飯 田 泰 彦	2009. 4. 1~2017. 3. 31
新 盛 基 史	2016. 4. 1~2017. 3. 31

■主任

通 事 孝 作	2004. 7. 1~2005. 3. 31
---------	------------------------

■係長

島 仲 八十代	2005. 4. 1~2006. 3. 31
通 事 孝 作	2005. 4. 1~2013. 3. 31 退職
飯 田 泰 彦	2017. 4. 1~現在

■嘱託員

登野原 五 月	1990. 10. 15~1992. 3. 31
通 事 孝 作	1991. 5. 10 ~1996. 4. 30
宮 良 はるみ	1992. 8. 7 ~1993. 3. 31

■臨時職員

新 盛 勝 一	1990. 8. 17~1991. 3. 31
新 本 良 明	1993. 4. 5 ~1996. 4. 30
小 浜 啓 由	1996. 5. 8 ~2001. 3. 31
平 良 みゆき	1996. 7. 18~1998. 5. 30
新 城 たか子	1998. 6. 12~2000. 3. 7
安 里 正 史	2001. 5. 7 ~2004. 3. 31
本 盛 かおり	2004. 4. 5 ~2004. 12. 28
金 城 誠 勇	2005. 1. 4 ~2005. 2. 28
飯 田 泰 彦	2008. 2 ~2009. 3. 31

■貸金職員

上 地 みどり	2010. 4. ~2020. 3. 31
田 邊 俊 介	2017. ~2019. 3. 31
大 浜 るみ江	2019. ~2020. 3. 31

■会計年度任用職員

新 城 良 乃	2020. 4. 1~2023. 3. 31
野 田 有	2023. 4. 1~2024. 3. 31
大 田 将 之	2024. 4. 1~2025. 7. 31
上 原 美 紀	2025. 10. 1~2026. 3. 31

作成／米盛恭子

2025年度 寄贈図書一覧

書誌 (書名、発行所、発行年)	編 著 者	寄 贈 者	受 入 日
『沖縄県平和祈念資料館年報』〈第24号〉(沖縄県平和資料館、2025年)	沖縄県平和祈念資料館	沖縄県平和祈念資料館	2025年3月12日
『沖縄県平和祈念資料館だより』〈第47号〉(沖縄県平和資料館、2025年)	沖縄県平和祈念資料館	沖縄県平和祈念資料館	2025年3月12日
『南島文化研究所所報』〈第69号〉(沖縄国際大学南島文化研究所、2025年)	沖縄国際大学南島文化研究所	沖縄国際大学南島文化研究所	2025年3月21日
『南島文化研』〈第47号〉(沖縄国際大学南島文化研究所、2025年)	沖縄国際大学南島文化研究所	沖縄国際大学南島文化研究所	2025年3月21日
『ウミシヨウブの観察』(高相徳次郎・木本行俊、2025年)	高相徳次郎	高相徳次郎	2025年3月25日
『法政大学沖縄文化研究所所報』〈第95号〉(法政大学沖縄文化研究所、2025年)	法政大学沖縄文化研究所	法政大学沖縄文化研究所	2025年4月11日
『沖縄文化研究』〈第52号〉(法政大学沖縄文化研究所、2025年)	法政大学沖縄文化研究所	法政大学沖縄文化研究所	2025年4月14日
『琉球の方言』〈第48号〉(法政大学沖縄文化研究所、2025年)	法政大学沖縄文化研究所	法政大学沖縄文化研究所	2025年4月14日
『沖縄研究資料』〈第33号〉(法政大学沖縄文化研究所、2025年)	法政大学沖縄文化研究所	法政大学沖縄文化研究所	2025年4月14日
『沖縄研究資料』〈第34号〉(法政大学沖縄文化研究所、2025年)	法政大学沖縄文化研究所	法政大学沖縄文化研究所	2025年4月14日
『沖縄県図書館協会誌』〈第28号〉(沖縄県図書館協会、2025年)	沖縄県図書館協会	沖縄県図書館協会	2025年4月14日
『石垣市文化財調査報告書第45号 屋良部沖海底遺跡一浮棧橋(ポンツーン)設置に伴う海底遺跡範囲確認調査一』(石垣市教育委員会、2024年)	石垣市教育委員会文化財課	石垣市教育委員会 教育長 崎山晃	2025年4月
『生り島への想い 竹富島の祭祀行事』(発行 南山舎、2025)	入里照男	入里照男	2025年5月9日
『与那原町史図説編 与那原 民俗・芸能』(与那原町教育委員会、2025年)	与那原町史編集委員会	与那原町教育委員会	25年6月3日
『竹富町立大原小学校創立80周年記念誌 輝け!大原っ子!』(大原小学校創立80周年記念事業実行委員会、2025年)	大原小学校創立80周年記念誌委員会	大原小学校創立80周年記念誌委員会	2025年6月4日
『遙かな山原 琉球新報「金口木舌」から』(あけぼの出版、2025年)	慶田城健仁	三木 健	2025年6月9日

書誌（書名、発行所、発行年）	編 著 者	寄 贈 者	受 入 日
『原田禹雄先生追悼録』（榕樹書林、2025年）	榕樹書林	榕樹書林	2025年6月12日
『環太平洋地域文化研究』（No.6）（公立大学法人 名桜大学、2025年）	環太平洋地域文化研究所	名桜大学環太平洋地域文化研究所	2025年7月1日
『八重山の1945年』（株式会社 みすず書房、2025年）	大田静男	大田静男	2025年7月20日
『沖縄県史 ビジュアル版14 沖縄戦』（沖縄県教育委員会、2025年）	沖縄県教育庁文化財課 史料編集班	（沖縄県公文書館内） 沖縄県教育庁文化財課 史料編集班	2025年8月5日
『沖縄史料編集紀要』（第48号）（沖縄県教育委員会、2025年）	沖縄県教育庁文化財課 史料編集班	（沖縄県公文書館内） 沖縄県教育庁文化財課 史料編集班	2025年8月5日
『沖縄県史だより』（第34号）（沖縄県教育庁文化財課 史料編集班、2025年）	沖縄県教育庁文化財課 史料編集班	（沖縄県公文書館内） 沖縄県教育庁文化財課 史料編集班	2025年8月5日
『那覇市歴史博物館紀要』（第2号）（那覇市市民文化部文化財課歴史博物館グループ、2025年）	那覇市市民文化部文化財課歴史博物館グループ	那覇市歴史博物館 館長 仲村 仁	2025年8月5日
『蔡大鼎漢詩精選集漏刻樓集・欽思堂詩文集』（うるま市教育委員会、2015年）	うるま市立図書館市史編さん係	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
『蔡大鼎『伊計村遊草』等調査研究事業研究成果報告書』（うるま市教育委員会、2015年）	うるま市立図書館市史編さん係	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
『『伊計村遊草』訳注解』（うるま市教育委員会、2014年）	うるま市立図書館市史編さん係	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
『『伊計村遊草』漢詩書道展～蔡大鼎（伊計親雲上）が見たうるまの風景～』（うるま市教育委員会、2016年）	うるま市立図書館市史編さん係	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
『うるま漢詩ロード散策』（No.1）（うるま市立中央図書館市史編さん室）	うるま市立中央図書館市史編さん室	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
『うるま漢詩ロード散策』（No.2）（うるま市立中央図書館市史編さん室）	うるま市立中央図書館市史編さん室	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
『うるま漢詩ロード散策』（No.3）（うるま市立中央図書館市史編さん室）	うるま市立中央図書館市史編さん室	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
うるま漢詩ロード散策』（No.4）（うるま市立中央図書館市史編さん室）	うるま市立中央図書館市史編さん室	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
『うるま漢詩ロード散策』（No.5）（うるま市立中央図書館市史編さん室）	うるま市立中央図書館市史編さん室	うるま市教育委員会 文化財課 市史編さん係	2025年8月5日
『石垣市立八重山博物館紀要』（第29号）（2025、石垣市立八重山博物館）	石垣市立八重山博物館	石垣市立八重山博物館長	2025年8月21日

書誌（書名、発行所、発行年）	編 著 者	寄 贈 者	受 入 日
『海・山・里を繋ぐ八重山の水の文化誌資料集』（2022年）	総企画 李春子	花城正美	2025年8月26日
『知床博物館研究報告』（第47集）（斜里町立知床博物館、2025年）	斜里町立知床博物館	斜里町立知床博物館館長 佐々木剛志	2025年8月26日
『知床博物館第43回特別展 大標本展～標本たちの物語をたどる～』（斜里町立知床博物館、2024年）	斜里町立知床博物館	斜里町立知床博物館館長 佐々木剛志	2025年8月26日
『LINKAGE ブックレットシリーズ島と学ぶ02 生きる力を育むー八重山の学校の田んぼ（総合学習・稲作体験学習）』（総合地球環境学研究所 LINKAGE プロジェクト、2025年）	総企画・作成 李春子	李 春子	2025年9月25日
『友利哲雄竹富町長のこよみ』		根原 健	2025年9月1日
『昭和62年度版町勢要覧』（竹富町役場）	竹富町企画課	根原 健	2025年9月1日
『昭和60年度版町勢要覧』（竹富町役場）	竹富町企画課	根原 健	2025年9月1日
『昭和58年度版町勢要覧』（竹富町役場）	竹富町企画課	根原 健	2025年9月1日
『昭和56年度竹富町勢要覧』（竹富町役場）	竹富町企画課	根原 健	2025年9月1日
『平成27年度版竹富町勢要覧』（竹富町）	竹富町総務課	根原 健	2025年9月1日
『平成21年度版竹富町勢要覧』（竹富町）	竹富町総務課	根原 健	2025年9月1日
『平成14年度版竹富町勢要覧』（竹富町）	竹富町企画課	根原 健	2025年9月1日
『竹富町長あいさつ文集』（竹富町企画課）		根原 健	2025年9月1日
『竹富町長あいさつ文集』（第2集）（竹富町企画課）		根原 健	2025年9月1日
『平成25年竹富町青年議会会議録』（竹富町）		根原 健	2025年9月1日
『平成20年竹富町町制施行60周年記念竹富町子ども議会会議録』（竹富町教育委員会）		根原 健	2025年9月1日
『「あんとうり」の碑 建立記念誌』（うるち会、2010年1月31日）		上地あさな	2025年9月10日
『広報たけとみちょう』（第106号）（昭和59年12月21日（金）、竹富町企画課）～『広報たけとみちょう第2001年』（260号）	竹富町企画課	根原 健	2025年9月1日
『大富入植70周年記念誌和衷協力ー紡ぐ世代と融合ー』（大富入植70周年記念事業期成会、2023年）	大富入植70周年記念誌編集委員会	大嶺 誠	2025年10月7日

書誌（書名、発行所、発行年）	編 著 者	寄 贈 者	受 入 日
『ふがぬとうー与那国島の濟州島漂流民伝承』（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所 LINKAGE プロジェクト）2025年）	著者／和歌嵐香 N子（わからんこ・えぬこ）、編者／安溪貴子・安溪遊地	総合地球環境学研究所	2025年10月2日
『ぬていぬかーらどうなん いのち湧く島・与那国』（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所(LINKAGE プロジェクト）2023年）	著者／和歌嵐香 N子（わからんこ・えぬこ）、編者／安溪遊地、安溪貴子、渡久地健	総合地球環境学研究所	2025年10月2日
『神々への祈り』（映像データー）		波照間 純一	2025年10月8日
『祭り&海 昔の沖縄八重山』（映像データー）		波照間 純一	2025年10月8日
『ムシャーマ 美しい日本の海と島々』（映像データー）		波照間 純一	2025年10月8日
『ムシャーマ他 海』（映像データー）		波照間 純一	2025年10月8日
『ムシャーマ&土人&他』（映像データー）		波照間 純一	2025年10月8日
『感想文集 ひめゆり』（第36号）（公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館、2025年）	尾鍋拓美・仲田晃子	ひめゆり平和祈念資料館	2025年11月6日
『年報』（第36号）（公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団ひめゆり平和祈念資料館、2025年）	公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団ひめゆり平和祈念資料館	ひめゆり平和祈念資料館	2025年11月6日
『ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより』（第74号）（公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館、2024年）	公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館	ひめゆり平和祈念資料館	2025年11月6日
『ひめゆり平和祈念資料館 資料館だより』（第75号）（公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館、2025年）	公益財団法人 沖縄県女師・一高女ひめゆり平和祈念財団立 ひめゆり平和祈念資料館	ひめゆり平和祈念資料館	2025年11月6日
『令和6年度 沖縄語（しまくとぅば）保存継承事業報告書』（読谷村教育委員会 文化振興課、2025年）	読谷村教育委員会 文化振興課 読谷村史編集室	読谷村長 石嶺 傳實	2025年11月5日
『第37回読谷村平和創造展 『基地の村』読谷 米軍統治の始まり』展示資料集』（読谷村教育委員会 文化振興課、2025年）	読谷村教育委員会 文化振興課 読谷村史編集室	読谷村長 石嶺 傳實	2025年11月5日
『読谷村のしまくとぅば展〔衣食住〕展示資料集』（読谷村教育委員会 文化振興課、2025年）	読谷村教育委員会 文化振興課 読谷村史編集室	読谷村長 石嶺 傳實	2025年11月5日

書誌（書名、発行所、発行年）	編 著 者	寄 贈 者	受 入 日
『かわとはきもの No.204』（東京都立皮革技術センター台東支所、2023年）～『かわとはきもの No.213』	東京都立皮革技術センター台東支所	鈴木 絵美留	2025年11月14日
『小学校社会科3・4年 副読本 結びあうしま島』（1989年初版発行、2013年改訂版発行、竹富町教育委員会）		竹富町教育委員会	2025年11月18日
『越城節歌碑建立落成記念誌』（越城節歌碑建立事業実行委員会、2025年）	プリント536 本底 薫	大浜 修	2025年11月19日
『竹富町公民館連絡協議会創立50周年記念誌 足跡（パンヌアトゥ）』（竹富町公民館連絡協議会、2024年）	記念誌編集委員会 （編集長・花城正美）	公民館連絡協議会	2025年11月26日
『図書目録 Best Selection 2025』（南方新社、2025年）	南方新社	飯田 泰彦	2025年11月26日
『みぢかないきものたちの いのちのデザイン』（NPO 法人 森の学校、2023年）	佐伯 剛正	佐伯 剛正	2025年12月1日
『西表島 野生の中に暮らしがある』（NPO 法人 森の学校、2025年）	佐伯 剛正	佐伯 剛正	2025年12月1日
『竹富町公民館連絡協議会創立十五周年記念誌』（竹富町公民館連絡協議会、1987年）	池田 豊吉	花城正美	2025年12月5日
『重要文化財旧与那国家住宅附とーら修理工事報告書』（竹富町教育委員会、2022年）	OFFICE 萬瑠夢 村田信夫	社会文化課文化財係	2025年12月8日
『製品工法ガイド2024ー2025沖縄版』（株式会社沖縄建設新聞、2024年）	大濱きよみ、宜保直也、林秀美、福田祐子	社会文化課文化財係	2025年12月8日
『竹富島の集落と民家 竹富島伝統的建造物群保存地区保存計画見直し調査報告書』（沖縄県八重山郡竹富町教育委員会、2000年）	九州芸術工科大学	社会文化課文化財係	2025年12月8日
『一般財団法人沖縄美ら島財団 企画展 沖縄の染と織の至宝ー桃原用昇コレクションー』（一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所 琉球文化財研究室、2023年）	一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究所 琉球文化財研究室	社会文化課文化財係	2025年12月8日
『登録有形文化財（建造物）なごみの塔修理工事報告書』（竹富町、2024年）	OFFICE 萬瑠夢代表 村田信夫	社会文化課文化財係	2025年12月8日
『伝統的建造物群保存地区 歴史の町並 令和7年度（2025）版』（全国伝統的建造物群保存地区協議会、2025年）	全国伝統的建造物群保存地区協議会	社会文化課文化財係	2025年12月8日

書誌（書名、発行所、発行年）	編 著 者	寄 贈 者	受 入 日
『篠原武夫氏手紙の写し・篠原武夫氏提供資料(CD-R 1部) 国立公文書館 HP 内 Q&A 写し（八重山平和祈念館学芸員メモ書きあり）』	篠原武夫	八重山平和祈念館	2025年12月10日
『岐阜県安八町観光ガイドブック』・その他資料（安八町、2024年）	安八町役場	岐阜県安八町 岡田 立町長	2025年12月17日
『史料 近代沖縄教育史—喜舎場英勝の生きた世界』（不二出版 株式会社、2025年）	藤澤健一・近藤健一郎・萩原真美	藤澤健一	2025年12月22日
『嘉保根御嶽改築 記念誌』（2025年）	嘉保根御嶽改築期成会	嘉保根御嶽改築期成会	2025年12月25日
『小浜公民館創立三十周年記念誌』（小浜公民館、1988年）	記念誌編集委員会	花城正美	2025年12月
『2025年度 沖縄タイムス学術・出版三賞贈呈式・祝賀会』（パンフレット）（沖縄タイムス社・2026年）	沖縄タイムス社	石垣久雄	2026年2月6日
『沖縄民謡採譜集 Ⅲ 八重山』（東京芸術大学民族音楽ゼミナール、1981年）	東京芸術大学民族音楽ゼミナール	社会文化課文化財係	2026年2月18日
『八重山芸能と私たち』（創立20周年記念誌編集委員会、1986年）	創立20周年記念誌編集委員会 （代表者 山里純一）	社会文化課文化財係	2026年2月18日

（上原美紀）

購入図書一覧

	書名	著者・編者	出版者
1	八重山のアイナーと宮古のアンナ 台湾諸語等との関係を探る	津波高志	七月社
2	沖縄県から琉球へ よくわかる沖縄の歴史	来間泰男	日本経済評論社
3	沖縄からの縄文の声 宮城えみこ対談・証言集	宮城えみこ	コールサック社
4	新編琉球の人文	柳 宗悦	春秋社
5	柳田国男と琉球 『海南小記』をよむ	酒井卯作	森話社
6	「手仕事」ルネサンス 土から衣まで	石垣昭子・三砂ちづる	藤原書店
7	西表島・紅露（くーる）工房シンフォニー 自然共生型暮らし・文化再生の先行モデル	石垣昭子・山本真人	地湧社 8
8	美ら島の生物ウォッチング100	土屋 誠	東海大学出版会
9	南島旅行見聞記	柳田国男・酒井卯作	森話社
10	沖縄の地域文化を訪ねる 波照間島から伊是名島まで	今林直樹	コールサック社
11	沖縄戦場定点写真集	水ノ江拓治	パブリブ
12	ハジチ 蝶人へのメタモルフォーゼ Japonesian Ryukyu Tribal Tattoo	喜山荘一	南方新社
13	泡盛天使の酒造所めぐり		琉球新報社
14	沖縄の本屋さんとおすすめ本ガイドブック	室井昌也	論創社
15	復帰後世代に伝えたい「アメリカ世」に沖縄が経験したこと	池間一武	琉球プロジェクト
16	復帰前へようこそ おきなわ懐かし写真館	海野文彦	ゆうな社
17	えらぶよろん民謡辞典 復刻 琉球弧文化芸能シリーズ 1	久保けんお	南方新社
18	琉球植物民俗事典 聞き書き琉球列島の植物利用	盛口 満	八坂書房
19	混効験集・南島八重垣 翻刻 復刻 琉球文学大系19	名桜大学琉球文学大原編集刊行委員会	ゆまに書房
20	島の民具	富本 衛	南山舎
21	精霊の宿る川	笠井雅夫	南山舎
22	琉球弧の入墨針突 復刻	鹿児島県立大島中学校	南方新社
23	響きあう島々 世界遺産奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島写真集	沖縄タイムス社・南海日日新聞社・八重山毎日新聞社	沖縄タイムス社
24	マングローブ生態系探検図鑑 日本にもある！亜熱帯のふしぎな森をさぐる	馬場繁幸	偕成社
25	琉球動物民俗事典 聞き書き琉球列島の動物利用	盛口 満	八坂書房

(上原美紀)

アウエハント＝静子 presents 第6弾！

ウリズンの記憶 1965

コルネリウス＝アウエハント氏 & 静子さん

1965年旧暦3月3日 サニチィ〈大泊浜〉

―波照間島調査 第1期フィールドワーク初日―

波照間島調査の第一歩の象徴的な風景として焼きついているからでしょうか、今でも静子さんは、島中がなごやかな雰囲気にも包まれた光景を、昨日のように語ります。

アウエハント氏と静子さんは、この浜下りの日から9カ月間、大泊家の一番座の裏表を借り、年中行事を中心に調査研究を進めました。

Shoei Powers 「アウエハント夫婦の歩み」(『1965年の波照間島』)



サニチムチィ（ヨモギ餅）を作る！



編集後記

『竹富町史だより』〈第58号〉をお届けします。本号は、町史編集係をめぐる、2025年度の活動報告を中心とした内容になっています。

まず、表紙の写真に続き、今回初の取り組みとなった西表島と与那国島の芸能交流会の様子を眞謝マリナ氏に寄稿いただきました。出身地である与那国島と嫁ぎ先の西表島の文化や芸能の違いや豊かさを実感し交流会を企画実現したといえます。かつて琉球王国時代には、与那国船が停泊し、公用船の指定港であった祖納^{ソナ}北泊港は、現在でも通称「ユヌンフチ（与那国口）」と呼ばれています。この地名から、両島の歴史的な交流が読み取れます。加えて、今回の交流で公演した各演目についての解説や歌詞、写真をまとめて掲載できたことも成果の一つだといえるでしょう。

また、「竹富町における公民館の〈足跡〉と連絡協議会の役割」を熊本大学の山城千秋氏に寄稿いただきました。山城氏は、竹富町の公民館と公民館連絡協議会の役割について、『創立50周年記念誌 足跡』^{パンスアトフ} 発刊を機にまとめてくださいましたが、中でも、米軍統治下に高等弁務官資金の援助を受けて建設された公民館に竹富・船浦・中野公民館などがあり、「この事実は、一般には十分に認知されていない（中略）未来に向けてその建設経緯や利用の実態を含めた調査と記録を今後進めていく必要がある」と記述しています。このことは、かつて船浦公民館の建設に携わった故・渡真利弘さんが「英語もわからないのにアメリカさんと一緒に石垣島からセメントや材料を購入してきた（米盛聞き書き）」と合致する記述であり、町史に携わる者の一人として、心して取り組まなければいけないと感じました。

そのほか2025年11月、斜里町立知床博物館から、学芸員の勝田一気氏、樋口真人氏のお二人による〈竹富町調査〉が行われ、約1週間の滞在期間中に訪れた竹富島、西表島、由布島、波照間島での経験や採集した陸貝や植物について、竹富島の「種子取祭」見学記などを寄稿いただきました。姉妹町である斜里町との継続的な交流ができたことを嬉しく感じるとともに、若い学芸員の皆様の活躍を楽しみにしています。

また、「2025年度沖縄県地域史協議会第2回研修会」で報告させていただいた内容を再編集して掲載しました。報告にあたり、竹富町史の成り立ちやこれまでの経緯、『西表島編』〈上巻〉をはじめとする町史刊行物の発刊についてまとめることができました。同時に、「竹富町史は竹富町民が主体的な歴史を編んでいくための場である」ことを再認識することができました。

このほか、竹富島と波照間島で開催した「沖縄環太平洋映画祭 第2回 Cinema at Sea—巡回映画祭 in 竹富町—」についてまとめたほか、竹富町史編集室を立ち上げた1989年（平成1）からこれまでの36年間にわたる「竹富町誌編集委員歴代名簿」を作成し便覧に供するところです。また「竹富町史編集委員会議事録」、「寄贈図書一覧」、「購入図書一覧」などを掲載しています。

1年間、町史編集事業はもとより、町史所蔵写真の整理、映画会の取り組み、さまざまな研修会への参加や多くの方々との出会いや対話による日々の経験は、私自身のかけがえのない財産です。1年は節目ではありますが、今は過去と繋がりまた絶えず未来へと繋がっていることを学ばせていただきました。ありがとうございました。
(米盛恭子)

2026年4月30日発行

竹富町史だより 第58号

編集発行 竹富町教育委員会

沖縄県石垣市美崎町11-1

TEL 0980-87-6257

e-mail : taketomi-choshi@town.taketomi.okinawa.jp